



NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION

Gunma University

群馬大学概要
2025

Contents

学長からのメッセージ Message from the President	1
群馬大学の理念及び目標、教育ポリシー Mission	2
概要編 Outline	5
資料編 Data	23



桐生キャンパス内の工学部同窓記念会館
(平成10年に国の登録有形文化財として登録)

2025年4月 食健康科学研究科が誕生しました。

研究科について → p.10



<https://fphs.hess.gunma-u.ac.jp/>

食健康科学研究科長
粕谷 健一
Ken-ichi Kasuya



地球温暖化や気候変動、新たな感染症の流行、食料不足、環境汚染といった複合的な課題が深刻化する現代において、健康を維持しながら持続可能な未来社会を築くためには、医科学・保健学・食品科学・食品生産工学など、多領域を横断する総合的アプローチが不可欠です。

群馬大学では、「食」をテーマに、地域特産農産物の高付加価値化や生活習慣病の基礎研究、予防医学的アプローチを通じ、社会課題の解決に取り組んできました。群馬県は首都圏に近接しながら全国屈指の農業出荷額を誇り、コンニャク芋、ヤマトイモ、梅などの生産が盛んです。また、ナショナルブランドの食品産業が集積する地域としても発展を遂げています。一方で、高齢化の進行に伴い、生活習慣病やフレイルといった健康課題が深刻化しており、これらの課題解決が急務となっています。そこで、2017年に「食健康科学教育研究センター（→p.16）」を設立し、医科学・保健学・食品工学・食品生産工学の学内リソースを結集して研究・教育を進めてきました。

そして、さらなる学際的研究と高度な専門人材の育成を推進するため、2025年4月に「食健康科学研究科」を開設しました。本研究科は、「群馬の食は世界を目指す」をスローガンに掲げ、地域から国際社会までを視野に入れた学際的な教育・研究を展開します。食の安全性や疾患予防、先端的食品加工技術の開発に加え、大規模コホート研究や生活習慣病の分子レベルでの解明を行い、科学的根拠に基づく産業や政策を創出する人材の育成に注力します。また、「環境 (Environmental health)」、「社会 (Social health)」、「人体 (Human health)」の3つのヘルスサイエンスを重点領域とし、地域産業の振興や世界規模の課題解決に貢献することを目指します。

さらに、オンライン講義や長期履修制度を導入し、多様な背景を持つ社会人学生や留学生が学びやすい環境を整備し、異なる専門性を持つ学生間の交流の場を提供し、新たな発想や知見の創出を促進することで、学際的研究の発展を加速させます。そして、群馬大学が培ってきた先端研究の成果を活かし、行政・産業界との連携を強化することで、持続可能で健康的な社会の実現を力強く支えてまいります。

本研究科のこれからに、ぜひご期待ください。



(撮影：平山素也 氏)

群馬大学長 石崎 泰樹

Ishizaki Yasuki

群馬大学は、創基150周年を契機として改めて、知の拠点として地域の人材育成や地域社会を支える基盤となると同時に、グローバルな視点で活躍できる大学を目指します。

私たちは国際社会の一員として、2030年までにSDGs（持続可能な開発目標）を達成することが求められています。SDGsは2015年に国連サミットで採択された共通目標であり、17の目標と169のターゲットから成立しています。これらの

目標を達成するため、群馬大学はSDGsの実現に向けた学問の探求及び教育研究の諸活動を通じて、豊かな人間性と高い専門能力を持った人材の養成を推進しています。

SDGsの16番目の目標に「平和と公正をすべての人に」があります。2022年2月のロシアによるウクライナへの軍事侵攻に対して、群馬大学は強い抗議の言葉を発し、これまで4名の学生・1名の研究員を受け入れて支援を続けてきました。学生のうち2名は欧州の教育機関へ進学し、1名は本学情報学部に入學、もう1名は本学の教員として活躍しています。研究員は日本国内に職を得ることができ、5名がそれぞれの道を歩み始めました。2023年10月からはパレスチナのガザ地区で深刻な人道危機が続いています。群馬大学は、このガザ地区での紛争に際し、多くの子供を含む無辜の人々に対する人道的支援を円滑に進めるための人道的停戦と、全ての人質の解放を強く求めました。群馬大学は今後も「平和と公正をすべての人に」提供すべく努めてまいります。

少子高齢化が急激に進んでいる日本において、群馬大学はどう対応していくべきでしょうか？一つは主としてアジア地域から優秀な学生をリクルートし、高度人材として日本に定着し地域の活性化に貢献してもらうことです。この目的のために、グローバル・ハタクラクラスぐんま（GHKG）プロジェクトを実施しています。他方で欧米諸国に比べて社会人学生の入学が停滞している現状を鑑み、社会人が入学しやすい環境を整備していかなければならないと考えています。社会人一人一人の価値が高まれば地域の活性化、延いては「知の総和」の維持・向上につながります。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックをきっかけに、リモートワークやリモート授業などの新しい生活様式が私たちの生活に定着しつつあります。一方で、日本のIT化が国際社会の中で立ち後れていることが顕在化しています。大量の情報が発信され活用される超スマート社会Society 5.0がまさに到来しようとしています。情報の質の評価や人権の尊重に関する倫理的課題など、解決すべき多くの問題が残されています。さらに生成AIの出現は、社会を大きく変えていくことが予想されます。生成AI等をどう利活用すべきかを真摯に考え、大学教育を変革していかなければなりません。群馬大学は、数理データ科学教育研究センターを中心に、全ての学生がSociety 5.0で活躍できる素養を身に付けられる教育体制を取っていますが、2024年4月に情報学研究科を新設しました。情報学研究科では、社会が現代の情報学に要求する広範な分野に対応するため、情報科学プログラムと社会情報学プログラムを開設し、幅広い学びと研究の機会を提供しています。2026年4月からは、これまでの修士課程に加えて博士課程を設置し、複雑化する情報社会の課題解決を先導する博士人材を養成します。

また群馬大学は2024年4月にパブリックヘルス学環及び医理工レギュラトリーサイエンス学環という二つの学環を立ち上げました。学環では研究科の枠組みを超えた教育プログラムを提供します。パブリックヘルス学環では保健学研究科と医学系研究科が連携し、地域・国内外の公衆衛生上の課題解決のために、高度専門家として指導的役割を果たすことができる人材を育成します。医理工レギュラトリーサイエンス学環では、理工学府と医学系研究科が連携し、先端研究を社会実装につなげるレギュラトリーサイエンスの素養を有する人材を育成します。これまでは二つの学環共に修士課程のみでしたが、2026年4月から博士課程がスタートします。アカデミアのみでなく実社会でも活躍する高度専門職業人としての博士人材を養成します。

さらに群馬大学は2025年4月に食健康科学研究科を新設しました。群馬県は、自動車産業に次いで食料品製造業が主要産業となっています。また群馬県は、農産物、酪農や和牛・養豚などの畜産、そして森林保護林を含む林業面で、バランスと強みを有する地域です。このような地域の状況を踏まえて、本学では、「食」をキーワードに健康社会に貢献する「食健康科学教育研究センター」を2017年に設置しました。このセンターにおける教育研究活動を通して、「食健康科学」において従来の学問分野の枠を超えて分野横断的に活躍できる高度専門人材、世界の「食健康科学」をリードできる先端専門人材を積極的に育成する必要性が明らかになり食健康科学研究科を設置しました。学生・教員・学外の教育研究機関・企業・自治体等の皆様が自由に発想し柔軟に連携するためのプラットフォームです。本研究科では、人の健康な生活の追求だけでなく、食の生産・流通・消費に関わる環境や社会の健全性の維持・強化にも併せて取り組みます。学部教育によって培われた個々が有する専門性を基盤に、「食健康科学」を基軸としてSDGsの達成に貢献できる「食健康科学」高度専門人材を育成します。

群馬大学は、絶え間なく大学院教育体制の見直しを行っており、将来を見据えた課題解決に役立つ高度専門人材の育成を強化していきます。

1949年に制定された徽章は群馬大学が上毛三山に囲まれていることを表しています。上毛三山の中で荒牧キャンパスに最も近い赤城山は広い裾野を持っています。群馬大学も赤城山のように、広い知の基盤を形成し、その基盤の上にリージョナルからグローバルまで、様々なレベルの知の峰を作り、世の中に発信していきたいと思っています。

群馬大学のビジョンである「地域に根ざし、知的な創造を通じて、世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓く大学へ」の実現に向け、皆様の意見を広く取り入れ、地方創生に貢献すると共に「知と人材」のグローバルな集積拠点として、一層魅力ある大学になるよう、改革を進めてまいります。

前 文 / Preface

群馬大学は、上毛三山に抱かれた明るく豊かな自然風土の下、昭和二十四年に新制の国立大学として誕生した。それ以後、北関東を代表する総合大学として、有為な人材を育成するとともに、真理と平和を希求し、深遠な学理とその応用を考究し、世界の繁栄と人類の福祉に貢献することを目的として、その社会的使命を果たしてきた。

二十世纪後半は、科学技術の飛躍的発展と経済の繁栄に象徴される時代であり、同時に、人類の生存と繁栄の根幹に関わる諸問題が地球的規模において顕在化した時代でもあった。この中にあって、本学は、教育学、社会情報学、医学、工学の各分野における教育及び研究を通して、真摯に時代の要請に応えてきた。

ここにおいて、群馬大学は、二十一世紀を多面的かつ総合的に展望し、地球規模の多様なニーズに応えるため、新しい時代の教育及び研究の担い手として、次の基本理念を宣言する。

基本理念 / Basic Philosophy

1. 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。
2. 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学・技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。
3. 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。

ビジョン / Vision

「地域に根ざし、知的な創造を通じて、世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓く大学へ」

目 標 / Goals

1. 教育の目標

- (1) 学生の自主的で創造的な勉学を促進する学修環境を整えるとともに、学生が本来持っている潜在的能力とエネルギーを引き出すため最大限の支援を行う。
- (2) 教養教育においては、その重要性を認識し、全学的な協力体制の下、専門教育との連携を図りながら、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。
- (3) 学部専門教育においては、教養教育との融合を図りつつ、各専門分野の最新の知見及び技術を修得しうる基礎的能力を育成し、豊かな知性と感性及び広い視野を持ち、学士力に裏打ちされた、社会から信頼される人材を養成する。
- (4) 大学院教育においては、高い倫理観と豊かな学識に立脚し、学部専門教育との関連を視野において、実践力を有する高度専門職業人及び創造的能力を備えた研究者を養成する。

2. 研究の目標

- (1) 専門分野において独創的な研究を展開するとともに、特に重点研究領域において国内外の大学・研究機関と連携して先端的研究を推進し、国際的な研究・人材育成の拠点を形成する。
- (2) 基礎的研究と応用的、実践的研究との融合を図り産業界や自治体等との共同研究・共同事業を推進し、その成果を広く社会に還元する。

3. 社会貢献等の目標※

- (1) 地域の知の拠点として学内外の関係機関と連携した活動を通じて、地域の文化及び伝統を育み、豊かな地域社会を創造する活動を行うとともに、知の地域社会への還元を推進し、産業の発展に貢献する。
- (2) 地域医療を担う中核として医療福祉の向上にあたりとともに、地域住民の多様な学習意欲や技術開発ニーズに応え、地域社会の活性化に貢献する。
- (3) 国際的視野の下で教育研究を充実する観点から、留学生の受け入れ及び本学学生の海外派遣を推進するとともに、海外の大学等との学術交流や教職員の国際交流を進める。

※社会貢献等の「等」は国際交流を含みます。

4. 大学運営の目標

- (1) 学長のリーダーシップの下で経営戦略を明確にし、大学構成員の能力を引き出し、自主性、自律性を持って効率的な大学運営に当たる。
- (2) 大学内での情報共有化と社会に対する大学情報の積極的な発信に努め、学内外への説明責任を果たす。
- (3) 不断の点検・評価と改革を推進し、大学の活力を維持発展させるとともに、大学の諸活動の質的向上を図る。

群馬大学の教育ポリシー

Education Policy

学部 / Undergraduate Schools

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～ / Diploma Policy

<卒業認定・学位授与の条件>

1. 以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。
2. 所定の年限在学し、かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。

<学修成果の目標>

専門的学識、技能

1. 所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。

幅広い教養、学際性

2. 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。

論理的思考力、コミュニケーション力

3. 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。

社会人としての自覚、国際性

4. 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～ / Curriculum Policy

<教育課程編成と教育方法>

全学的な協力体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育課程を編成し、実施します。本学の基本理念及び教育の目標を達成するために、本学の教育課程（カリキュラム）は以下の方針で編成されています。

1. カリキュラム・ポリシーを具現化するカリキュラム・マップに従った系統的教育と、授業科目の目標・内容・教育方法・達成度（成績）評価方法等について詳述されたシラバスに基づいた教育を実施し、アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学修意欲を促す教育、授業時間外自己学修や学修の振り返りを促す教育等を幅広く行う。
2. 学士課程教育においては、全学共通の教養科目及び専門科目を、互いの融合を図りながら編成する。
3. 全学共通の教養科目は、学士力の育成の基礎となる教養基盤科目と、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性の涵養につながる教養育成科目の二つの科目群から構成される。個別の領域の知識を学ぶのではなく、それらを統合していく考え方の修得及び各学問分野に共通の思考・判断・表現法の修得につながる教育を行うことにより、学生が自らの教養と主体性を構築していくことを促し、また外国語も含めた汎用的技能の基盤を培い、アイデンティティの確立した知識人としての考え方ができる人材を育成する教育を行う。
4. 専門教育を学ぶ上で必須となる基礎的知識や技能の修得を目的に、高校教育と大学における専門教育との円滑な接合を助け、その分野の基本的リテラシーについて学ぶ教育を行う。また、専門分野に関連する分野についての基礎的理解と新しいアイデアを引き出すことに役立つ知識・技能の修得を図り、専門分野の知識・理解・技能の質の更なる向上を目指す教育を展開する。

5. 専門科目においては、次の能力の養成に向けた教育を行う。

- (1) 専門分野の内容、社会的意義と限界を深く理解し、他者に説明・表現できる能力
- (2) 専門分野に関係する諸分野についての基礎的理解があり、客観的な評価ができる能力
- (3) 自らの専門分野の視点から現代世界が直面する諸変化の特性・特質を理解し、生起する諸課題について探究し、課題解決に実践的に取り組んでいくことができる能力

<学修成果の評価>

成績評価基準に基づいて行います。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～ / Admission Policy

<入学者に求める能力・資質>

群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

1. 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある。
2. 専門分野を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
3. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
4. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
5. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

<入学者選抜の方針・方法>

群馬大学は、本学で学びたい学生に対し、その多面的な能力を評価し選抜するために、多様な受験機会・入学試験を提供します。また、本学の国際化推進基本計画に基づいて、海外からの留学生を積極的に受け入れる方針の下、受験機会を提供します。

本学の教育の目標、求める能力・資質に合致する学生を選抜するために、一般選抜（前期・後期）、総合型選抜、学校推薦型選抜、帰国生選抜、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学試験等の入学試験を実施します。本学の入学試験では、それぞれの学部・学科・課程の専門・特性に合わせて、大学入学共通テスト、個別学力検査、実技等試験、調査書、活動歴、面接、小論文等を組み合わせて、総合的に合否を判定します。

大 学 院 / Graduate Schools

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～ / Diploma Policy

幅広く豊かな学識に立脚し、専門分野において創造性豊かに自立して研究活動を実践でき、高度な専門性・国際性を必要とする職業を担うための能力を身に付け、研究者・技術者・高度専門職業人としての倫理観を身に付けている人物で、各研究科・学府・学環が課程又は専攻ごとに定めた修了要件を満たした者に、学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～ / Curriculum Policy

国際的に活躍できる、創造的能力を備えた研究者及び実践力を有する高度専門職業人を養成するため、専門分野における基礎的素養を涵養し高度な専門的知識及び能力を修得させるよう、各研究科・学府・学環の課程又は専攻の教育目標の達成に向けた体系的な教育課程を編成し、実施します。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～ / Admission Policy

各研究科・学府・学環が課程又は専攻ごとに求める学力・能力を持ち、研究や実践によって、人類社会の発展に貢献する意欲のある人を受け入れます。

概要編／Outline

Contents

概要編

学部 Faculties	6 – 7
大学院・専攻科 Graduate Schools	8 – 10
附属施設 Affiliated Facilities	11
共同教育学部附属学校、医学部附属病院 Affiliated Schools, Gunma University Hospital	11
教育・研究関連施設等 University-wide Centers and Facilities	12 – 18
生体調節研究所、総合情報メディアセンター Institute for Molecular and Cellular Regulation / Library and Information Technology Center	12
大学教育・学生支援機構 Organization for Higher Education and Student Services	13
研究・産学連携推進機構 Organization to Promote Research and University-Industry Collaboration	14
重粒子線医学推進機構 Organization for Promotion of Heavy Ion Medicine	15
未来先端研究機構、食健康科学教育研究センター Gunma University Initiative for Advanced Research(GIAR) / Gunma University Center for Food Science and Wellness	16
数理データ科学教育研究センター、多職種連携教育研究研修センター (WHOCC)、多職種人材育成のための医療安全教育センター (PSEC)、共同利用設備総括センター Gunma University Center for Mathematics and Data Science /WHO Collaborating Centre for Research and Training on Interprofessional Education (WHOCC) / Patient Safety Education Center for Multiprofessionals (PSEC) / Joint Usage Facilities Management Center	17
共同研究拠点・教育関係拠点、ダイバーシティ推進センター Joint Usage/ Research Center & Education Center / Gunma University Center for Diversity and Inclusion	18
国際交流 International Exchange	19 – 20
地域・社会との連携 Projects for the Communities and Societies	21 – 22

共同教育学部（荒牧地区）

Cooperative Faculty of Education



HP

小学校、中学校、高等学校、幼稚園及び特別支援学校等の教員を養成する学部である。各教科についての深い知識・技能と実践的な指導力を身につけて地域教育界の発展に貢献できる教員の養成を目指している。

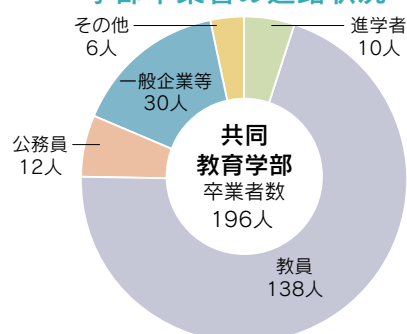
また、宇都宮大学とともに運営する全国初の「共同」の教育学部である。宇都宮大学と連携し、授業の相互乗り入れを行うことにより、全教科全校種の教員免許の取得が可能であり、幅広い専門分野の授業を受講できる仕組みが整っている。



宇都宮大学との遠隔授業

課 程	系	専 攻
学校教育教員養成課程	人文社会	国語専攻、社会専攻、英語専攻
	自然科学	数学専攻、理科専攻、技術専攻
	芸術・生活・健康	音楽専攻、美術専攻、家政専攻、保健体育専攻
	教育人間科学	教育専攻、教育心理専攻、特別支援教育専攻

学部卒業者の進路状況※



※教育学部卒業者を含む

情報学部（荒牧地区）

Faculty of Informatics



HP

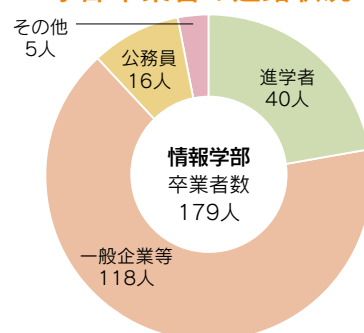
情報学部は、情報を軸とした文理横断型の教育を目指し、社会情報学部と理工学部電子情報理工学科情報科学コースを融合して2021年に新設した学部で、科学技術と人間社会の調和が求められる持続可能社会の実現において、情報を基軸とした文理横断型の教育により、Society5.0を支え、IoT、ビッグデータ、統計的解析手法等のスキルを持ち、人文科学、社会科学、自然科学の知識を有した人材を育成する。



授業風景

学 科	プログラム
情報学科	人文情報プログラム
	社会共創プログラム
	データサイエンスプログラム
	計算機科学プログラム

学部卒業者の進路状況※



※社会情報学部卒業者を含む

医学部 (昭和地区)

Faculty of Medicine



医学科HP



保健学科HP

医学科は、医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知 (Science)、倫理 (Ethics)、技能 (Skill) の3つの面 (SES) にわたって生涯自己研鑽を続けることができる人材の育成を目的としている。

保健学科は、群馬大学の理念等に基づき、人間の尊厳と倫理観を重んじ、多様性を尊重する姿勢を備えた、社会で活躍できる以下に掲げるリーダー人材の育成を目的としている。

- ・豊かな人間性、高度な専門知識に加え、他分野との協働を通じてヘルスサイエンスの発展に貢献する次世代のリーダー
- ・全人的医療及び多職種連携を重視し、地域社会や国際社会に貢献する人材

課 程		講 座 等
医学科		基礎医学教育部門、臨床医学教育部門、医学教育政策・支援部門
保健学科	看護学専攻	看護学講座
	検査技術科学専攻	検査技術科学講座
	理学療法学専攻	理学療法学講座
	作業療法学専攻	作業療法学講座

理工学部 (桐生地区・太田地区)

School of Science and Technology



HP

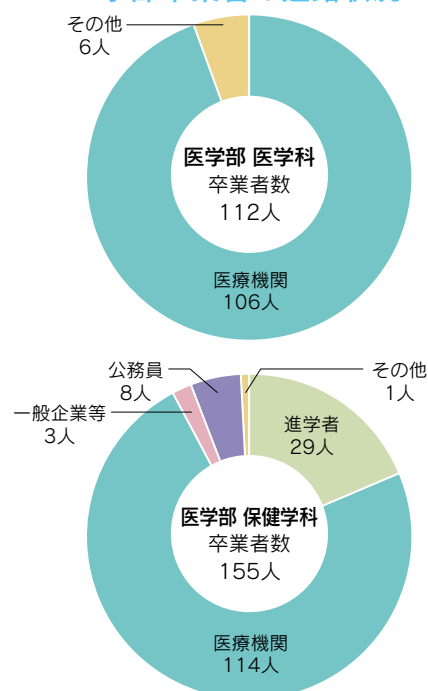
理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育を行い、個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育むとともに、国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成することを目的としている。

類	プログラム
物質・環境類	応用化学プログラム
	食品工学プログラム
	材料科学プログラム
	化学システム工学プログラム
	土木環境プログラム
電子・機械類	機械プログラム
	知能制御プログラム
	電子情報通信プログラム



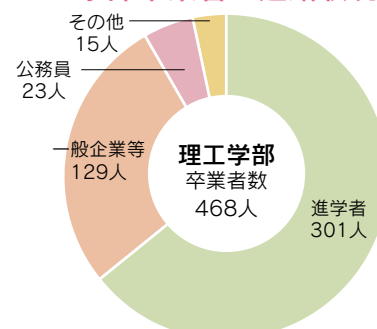
実習風景

学部卒業者の進路状況



授業風景

学部卒業者の進路状況



教育学研究科（荒牧地区）

Professional Graduate School of Teacher Education



HP

教育学研究科には、修業年限が2年の専門職学位課程（教職大学院）を設置している。研究者教員と実務家教員との協働による、複雑化・高度化する教育課題に高いレベルで対応できる教員の育成を目的としている。

教職リーダー、授業実践開発、特別支援教育実践開発の3コースを置き、現職教員、学部新卒者をそれぞれの基準で受け入れている。

専門職学位課程

専攻	コース
教育実践高度化専攻	教職リーダーコース
	授業実践開発コース
	特別支援教育実践開発コース



授業風景



授業風景

特別支援教育特別専攻科（荒牧地区）

Advanced Course for Special Needs Education



HP

本特別専攻科は学士の学位を修得し幼・小・中・高の教員免許を取得した者（取得見込みを含む）を対象として、特別支援教育に関する高度な専門性の修得と特別支援学校教諭免許状の取得を目的とする、修業年限1年の課程である。

専攻	コース
重複障害教育専攻	一種免許状取得コース



授業風景

情報学研究科（荒牧地区）

Graduate School of Informatics



HP

デジタルスキルと自然科学、人文科学、社会科学との基礎的理解に基づき情報科学および社会情報学に関するより高度な理解を持ち、人間社会の総合的理解と課題解決に資する高度なデジタル推進人材を育成することを目的としている。

情報科学プログラムでは、専門知識に基づいて先端的な研究開発を担えるサイエンティフィックリサーチャー、ソフトウェア・セキュリティエンジニア、データサイエンティストを育成する。

社会情報学プログラムでは、専門知識に基づき俯瞰的視点から課題を解決するソーシャルアーキテクト、デザイナー、データサイエンティストを育成する。

専攻	プログラム
修士課程	情報科学プログラム
	社会情報学プログラム



高度情報専門人材の養成体系図

医学系研究科（昭和地区） Graduate School of Medicine



HP

科学的知（Science）、倫理（Ethics）、技能（Skill）を探索し、それらの動的な融合から世界の医科学をリードする教育・研究・医療拠点を構築することを目標としている。先端的生命科学研究をさらに推進させ、疾病の病因究明と体系的治療戦略を実践する医学研究者を育成する。また高い倫理観と卓越した臨床研究能力を持つ医療人を育成するとともに研究成果の社会還元を促進していく。



授業風景

専攻		
修士課程		生命医科学専攻
専攻	領域	講座
博士課程	基礎・基盤医学	機能形態学、生体構造学、分子細胞生物学、生化学、応用生理学、脳神経再生医学、薬理学、遺伝発達行動学、細菌学、生体防御学、公衆衛生学、法医学、医学哲学・倫理学、医学教育開発学
	臨床医学	【内科学講座】 循環器内科学、呼吸器・アレルギー内科学、消化器・肝臓内科学、内分泌代謝内科学、腎臓・リウマチ内科学、血液内科学、脳神経内科学、腫瘍内科学 【総合外科学講座】 循環器外科学、呼吸器外科学、消化管外科学、乳腺・内分泌外科学、肝胆膵外科学、小児外科学 腫瘍放射線学、放射線診断核医学、神経精神医学、麻酔神経科学、救急医学、総合医療学、リハビリテーション医学、臨床検査医学、病態病理学、病理診断学、小児科学、産科婦人科学、泌尿器科学、脳神経外科学、眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚科学、形成外科学、整形外科科学、臨床薬理学、口腔顎顔面外科学、医療の質・安全学

保健学研究科（昭和地区） Graduate School of Health Sciences



HP

保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、個人及び集団の健康保持増進や生活の質（QOL）向上のための独創的あるいは学際的な研究を進め、幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身につける。

専攻		ユニット又は領域
博士前期課程（修士）	保健学専攻	基礎保健学ユニット、応用保健学ユニット、地域・国際保健学ユニット
博士後期課程（博士）		看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域

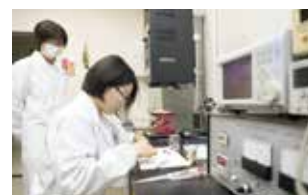
理工学府（桐生地区・太田地区） Graduate School of Science and Technology



HP

現在大学が社会から求められている、多様化・複層化が進化する産業活動における諸課題に対して俯瞰的なものの見方と、総合的実践力独創力を発揮し、社会からのニーズに応えることのできる高度理工系専門人材を育成することを目的としている。

課程	専攻	プログラム又は領域
博士前期課程（修士）	理工学専攻	応用化学プログラム 材料科学プログラム 化学システム工学プログラム 土木環境プログラム 機械プログラム 知能制御プログラム 電子情報通信プログラム
博士後期課程（博士）	理工学専攻	物質・生命理工学領域 知能機械創製理工学領域 環境創生理工学領域 電子情報・数理領域



授業風景

食健康科学研究科 (荒牧地区・昭和地区・桐生地区)

Graduate School of Food and Population Health Sciences



HP

食健康科学研究科は、学部教育によって培われた個々が有する医科学、保健学、食品科学、食品生産工学、環境科学に関する専門性を基盤に、食品工学から健康科学にまたがる横断的な高度専門知識を身に付けることで、人類の健康向上、脱炭素社会の実現等の世界規模の課題解決や、高付加価値食品の開発等による地域の産業振興に資する人材を養成することを目的としている。

専攻

修士課程

食健康科学専攻



授業風景



授業風景

パブリックヘルス学環 (昭和地区)

Interfaculty Initiative in Public Health



HP

パブリックヘルスは理論の修学と研究の実施に加えて、科学的根拠に基づいた組織での活動を実施し、社会への働きかけを通じて健康に導くことをミッションとします。疫学、医療統計学、社会行動科学、産業環境保健学、保健政策・医療管理学の5つの基本領域を学ぶグローバルに通用するMaster of Public Health (MPH) プログラムです。

ビッグデータを用いた実践的保健学人材育成プロジェクト



医理エレギュラトリーサイエンス学環 (昭和地区・桐生地区)

Interfaculty Initiative in Regulatory Science of Biomedical Science and Engineering



HP

理工学から生命医科学にわたる学問分野を俯瞰的に把握し、さらに高度な専門知識・技術を学ぶとともに、責任感と倫理観を有し、先端研究を社会実装につなげるレギュラトリーサイエンスの素養を有する人材を育成します。地域・国内外の産業・医療関連の高度専門家として指導的役割を果たすと期待されます。

課程

プログラム

修士課程

重粒子線医理工学プログラム



加速器装置



治療室

共同教育学部附属学校園（若宮・上沖地区）

Affiliated Schools



幼児及び児童・生徒に対し、幼児教育、義務教育として行われる普通教育及びそれに準ずる教育等を施すとともに、それぞれに関する実践的研究や先導的研究を学部と協力して推進し、地域の教育の充実・発展に寄与することと、共同教育学部学生の教育実習等を実施することを目的としている。現在、幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校を設置している。



活動風景（附属幼稚園）



授業風景（附属小学校）



未来創造科での中間検討会
（附属中学校）



学習の様子（附属特別支援学校）

医学部附属病院（昭和地区）

Gunma University Hospital



診療を通じて医学の教育及び研究の向上を図るものである。

病院には、教育と診療と研究の3つの重要な責務がある。教育については、医学部等の要請による臨床実習及び卒業後の初期教育が主体であり、診療については、保険医療機関として地域医療に貢献するとともに、一般医療機関では行い難い高度医療を提供する医療機関として活動し、研究については、先進医療の開発を中心とした臨床研究を行うことが、それぞれ主体となっている。

附属病院

診 療 科		中央診療施設	診療支援部門				
内科診療センター	循環器内科、 呼吸器・アレルギー内科、 消化器・肝臓内科、 内分泌糖尿病内科、 腎臓・リウマチ内科、血液内科、 脳神経内科、腫瘍内科	検 査 部 手 術 部 放 射 線 部 輸 血 部 集 中 治 療 部 病 理 部 周産母子センター 光学医療診療部 リハビリテーション部 感 染 制 御 部 腫 瘍 セ ン タ ー 重粒子線医学センター 救命救急センター 遺 伝 子 診 療 部 がんゲノム医療センター	材 料 部 システム統合センター 診療情報管理部 栄 養 管 理 部 患者支援センター 肝疾患センター 認知症疾患医療センター 地域医療研究・教育センター 保険診療管理センター 臨 床 工 学 部	薬 劑 部	看 護 部	医療の質・安全管理部	先端医療開発センター
	外科診療センター						
泌尿器科、歯科口腔・顎顔面外科、整形外科、 皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科神経科、 麻酔・集中治療科、脳神経外科、小児科、 産科婦人科、放射線治療科、放射線診断核医学科、 救急科、総合診療科							



医学部附属病院



放射線治療室



医療安全週間ポスター掲示

生体調節研究所（昭和地区）

Institute for Molecular and Cellular Regulation



HP

生体調節研究所は1963年に設置された旧内分泌研究所から1994年の改組を経て誕生した国内唯一の「内分泌・代謝学」に関する基礎医学研究所であり、半世紀以上もの間、一貫して我が国における当該分野を先導する国際的研究拠点として活動してきた。この間、内分泌・代謝システムの研究を中心に、細胞レベルから動物個体に至るまで多様な研究材料を用いて生体の恒常性を司る分子機構の解明を目指すとともに、その破綻により引き起こされる疾患、特に糖尿病、脂質異常症、肥満症、がんなどといった近年社会問題化している生活習慣病に焦点をあてた研究を推進している。

(関連：P18)



生体調節研究所



研究活動の様子

研究部門

部 門	分野・ユニット・附属研究施設	
基盤研究部門	細胞構造分野、生体膜機能分野、個体代謝生理学分野、拠点研究支援センター	
ゲノム・エピゲノム解析部門	代謝エピジェネティクス分野、疾患ゲノム解析分野、生体情報ゲノムリソースセンター	
内分泌・代謝疾患解析部門	予防対策グループ	粘膜エコシステム制御分野
	治療対策グループ	代謝疾患医科学分野、分子糖代謝制御分野、代謝システム制御分野
	トランスレーショナルリサーチグループ	ヒト脾臓解析ユニット、分子標的・薬剤探索ユニット、全世代代謝解析ユニット
	生活習慣病解析センター	

附属研究施設

附属研究施設	分 野
生体情報ゲノムリソースセンター	ゲノム科学リソース分野、疾患ゲノム研究分野
生活習慣病解析センター	代謝シグナル解析分野、トランスレーショナルリサーチ分野
拠点研究支援センター	—

総合情報メディアセンター

Library and Information Technology Center



HP

総合情報メディアセンターは、本学の教育研究支援を目的とした学術情報の収集と情報発信並びにIT基盤の整備・運用を行っている。図書館部門は、資料の整備・提供に加えて、学生のための「学びの場」としてラーニングコモンズを設置するとともに、地域の「学びの場」として学外者へのサービスにも力を入れている。情報基盤部門は、CIO（情報化統括責任者）のもと情報化を進めるとともに、情報セキュリティインシデントへの対応を迅速かつ一元的に行うことを目的として全学の危機管理室に設置された「群馬大学CSIRT」と緊密に連携し、情報セキュリティの確保を担っている。また、2022年に本センターに設置された群馬大学出版会は、本学又は本学の教職員が作成した教材著作物の利用許諾等、著作権の管理に関する事務を行っている。

図書館部門

図書館部門は、中央図書館（荒牧地区）、医学図書館（昭和地区）及び理工学図書館（桐生地区）の3館が連携・協力しながら、図書の提供・保存のほか、電子的資料に対応するため、リポジトリの構築、電子ジャーナルや各種データベースの整備を行っている。

各館に整備したラーニングコモンズにおいて講演会や展示会を定期的に開催するとともに、地域交流のため中央図書館内のギャラリー利用を学外者にも開放している。

■蔵書数（2025年5月1日現在）（単位：冊）

区分	中央図書館	医学図書館	理工学図書館	計
和書	275,316	71,812	79,300	426,428
洋書	55,613	58,929	66,118	180,660
計	330,929	130,741	145,418	607,088



中央図書館（荒牧地区）

情報基盤部門・事務情報部門

情報基盤部門は、全学の組織である群馬大学CSIRTと連携し、セキュリティが確保され安心して使いながら使いやすいIT環境の実現に努めている。

荒牧地区、昭和地区、桐生地区に職員を配置し、全学認証アカウント、電子メールなどのITサービス、BYOD環境での講義等で利用される無線LANシステム等を提供し、利用者へのサポートを行っている。

事務情報部門は、GUNetを利用して事務情報ネットワークを整備し、情報基盤部門と連携し、事務の効率化・情報化を推進している。

■全学ソフトウェアライセンス（ソフトウェアの無償配布）

学生、教職員が全学的に使用するソフトウェアの標準化と、その整備に係る経費の節減並びにソフトウェアの不正コピーの防止を組織的に取り組むことでのコンプライアンス対策等を目的として、マイクロソフト社との間で「マイクロソフト包括ライセンス契約」を締結している。当該契約により本学の教職員及び学生は、個人のパソコンにも無償でOfficeの最新バージョンを利用することができる。

■群馬大学学術情報ネットワーク（GUNet）

教育研究に不可欠な情報ネットワーク環境として、全学的な認証ネットワークを提供している。認証ネットワークでは、学生・教職員に発行される全学認証アカウントを使って認証することにより、簡単かつ安全にネットワークを利用することができる。

※総合情報メディアセンターでは、上記に加え様々なサービスを提供している。サービスの詳細については、ホームページを参照。

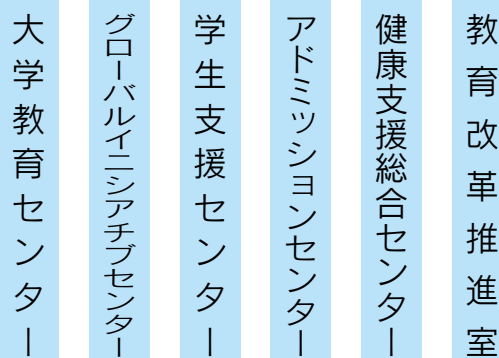


HP

大学教育・学生支援機構は、学生に対する教育、支援などを適正かつ円滑に行うことを目的としており、次の6つのセンター等から構成されています。

大学教育・学生支援機構

機構会議



目的

学生の教育、支援等の適正 かつ円滑な実施

業務内容

1. 大学教育（大学院教育を含む）の企画、運営、改善及び評価
2. グローバル化推進（研究に特化した業務を除く。）
3. 学生支援
4. 入学者選抜、高大連携及び学生募集広報
5. 学生及び教職員の健康の保持増進
6. 教育、支援等に係る情報公表
7. 各学部等との連絡調整

大学教育センター

目的

全学に共通する大学教育の基盤を整備するとともに、教養教育を円滑に運営すること

業務内容

1. 大学教育の教育内容及び教育方法の改善
2. 大学教育の運営及び評価

グローバルイニシアチブセンター

目的

教育活動のグローバル化を推進すること

業務内容

1. 外国語教育
2. グローバル人材育成
3. 学生の海外派遣及び外国人留学生受入に係る支援

学生支援センター

目的

学生の生活及び就職活動に対する支援並びに修学に係る相談等を適切かつ円滑に行うこと

業務内容

1. 学生生活の支援
2. 学生相談の企画、立案及び実施
3. 学生の就職指導の企画、立案及び実施
4. 障害学生の修学支援

アドミッションセンター

目的

入学者選抜方法の企画及び立案、入学者選抜実施の総括、入学者選抜の改善に係る分析及び調査、入学者選抜に係る情報の適正な管理並びに高大連携及び学生募集広報の推進を図ること

業務内容

1. 入学者選抜方法の企画、立案及び改善に関すること。
2. 入学者選抜（大学入学共通テストを含む。）実施に係る総括に関すること。
3. 入学者選抜の結果の分析及び評価に関すること。
4. 入学者選抜に係る調査及び研究に関すること。
5. 入学者選抜に係る情報の保護、管理及び開示に関すること。
6. 入学者選抜に係るリスクマネジメントに関すること。
7. 高大連携活動の企画、立案及び実施に関すること。
8. 学生募集広報活動の企画、立案及び実施に関すること。

健康支援総合センター

目的

学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図ること

業務内容

1. 健康診断の企画、立案及び実施
2. 健康診断結果についての事後対応及び助言指導
3. 心身の健康に関する相談対応（カウンセリング）
4. 外傷等の応急処置
5. 保健管理に関する調査研究
6. 流行性疾患等の予防及び環境衛生に関する助言指導

教育改革推進室

目的 大学教育全体の改革を推進していくこと

業務内容

1. 教育実施体制及び教育方法等に関する企画立案
2. 地域と連携した教育に関する企画立案
3. 社会ニーズを踏まえた教育プログラムの企画立案
4. アクティブラーニングに関する企画立案

研究・産学連携推進機構

Organization to Promote Research and University-Industry Collaboration



HP

研究・産学連携推進機構は、研究・産学連携戦略本部、高度研究推進・支援部門、高度人材育成部門、産学連携・知的財産部門、次世代モビリティ社会実装研究センターから組織されており、大学の基本理念に基づき、優れた研究成果を生み出すための体制を強化し、知的財産の管理・運用等を円滑に行い、もって本学における学術研究の一層の高度化とその成果を広く社会に還元することを目的としている。

研究・産学連携戦略本部

◇研究URA室

- (1)研究活動等の調査・分析
- (2)科学技術・学術政策等の動向把握等
- (3)競争的研究費等に係る情報収集・分析及び申請支援
- (4)プロジェクト研究推進の支援 (5)産学官連携推進の支援

◇産学連携ワンストップサービスオフィス

- (1)外部機関等からの相談窓口及び運営
- (2)外部機関等からの産学連携に係る依頼事項等の調整
- (3)外部機関等との技術移転活動の調整及び成果の検証
- (4)機構の産学連携組織間における産学連携活動の進捗等の情報共有

高度研究推進・支援部門

◇高度研究戦略室

- (1)研究戦略の策定 (2)先端研究の推進 (3)プロジェクト型研究の推進
- (4)競争的研究資金獲得のための企画立案
- (5)プロジェクトに係る研究設備マスタープランの策定

◇機器分析センター

- (1)機器の管理運用 (2)利用者に対する講習及び技術指導
- (3)分析、測定及び解析 (4)分析技術の研究開発、情報収集及び情報提供
- (5)外部依頼分析、技術相談
- (6)共同利用に係る研究設備マスタープランの策定

高度人材育成部門

◇高度人材育成センター

- (1)ポストドクター（PD）及び博士課程学生の実践的能力の開発
- (2)PDのインターンシップの実施
- (3)PD及び博士課程学生と企業等との交流及び連携
- (4)教職員のキャリアパスに係る意識啓発
- (5)PD及び博士課程学生のキャリア開発プログラムの構築
- (6)創業者及び創業支援人材の育成

◇研究支援人材育成コンソーシアム室

- (1)コンソーシアムの事務局
- (2)コンソーシアム事業の実施

産学連携・知的財産部門

◇産学連携・知的財産活用センター

- (1)民間機関等との共同研究及び受託研究
- (2)知的財産の創出、取得、管理及び技術移転
- (3)知的財産情報の発信
- (4)大学発ベンチャー企業の創出及び支援
- (5)首都圏北部地域における知的財産の技術移転支援
- (6)地域社会における学術研究の交流

◇リスクマネジメント室

- (1)利益相反に係る適切な管理
- (2)外国為替及び外国貿易法に基づく輸出管理に係る適切な管理
- (3)学内外の関係する機関等との連絡調整
- (4)教職員等に対する啓発活動

次世代モビリティ社会実装研究センター

次世代の移動手段を研究し、社会実験を通して新しい交通システムの実証と社会への普及を目指すため、2016年12月に「次世代モビリティ社会実装研究センター（通称：CRANTS）」を設置し、2018年4月には荒牧キャンパスに新たな研究拠点を整備した。次世代モビリティに関する多分野にわたる関連企業と80件に及び共同・受託研究契約を締結するとともに、全国70か所以上での自動運転実証実験を展開しており、さらに自治体や関連企業と連携して自動運転や遠隔制御運転など最先端技術の社会実装化を進めている。



HP



センターと自動運転車両



管制・遠隔運転室



公道を走行中の実証車両

重粒子線医学推進機構

Organization for Promotion of Heavy Ion Medicine



重粒子線医学にかかる研究、教育、診療活動を適正かつ円滑に推進することを目的としている。

重粒子線医学研究センター

重粒子線加速器を導入し、基礎／臨床放射線医学研究ならびに重粒子線治療技術の高度化研究開発を推進するとともに、この分野を担う臨床腫瘍医、医学物理士、放射線生物学者等の養成を行うことを目的としている。

また、附属病院重粒子線医学センターと協力しながら重粒子線治療の臨床試験を推進するとともに、重粒子線治療を中心としたがん診療の実践により、地域社会に貢献する役割も担っている。

重粒子線医学推進機構

重粒子線医学研究センター

物理学部門
生物学部門
医学部門

大学院医学系研究科

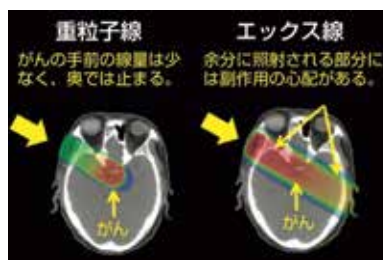
協力講座
重粒子線医学物理学分野
重粒子線医学生物学分野
重粒子線臨床医学分野
医理エリギュラトリー
サイエンス学環

医学部附属病院

中央診療施設
重粒子線医学センター



重粒子線医学センター(重粒子線照射施設)

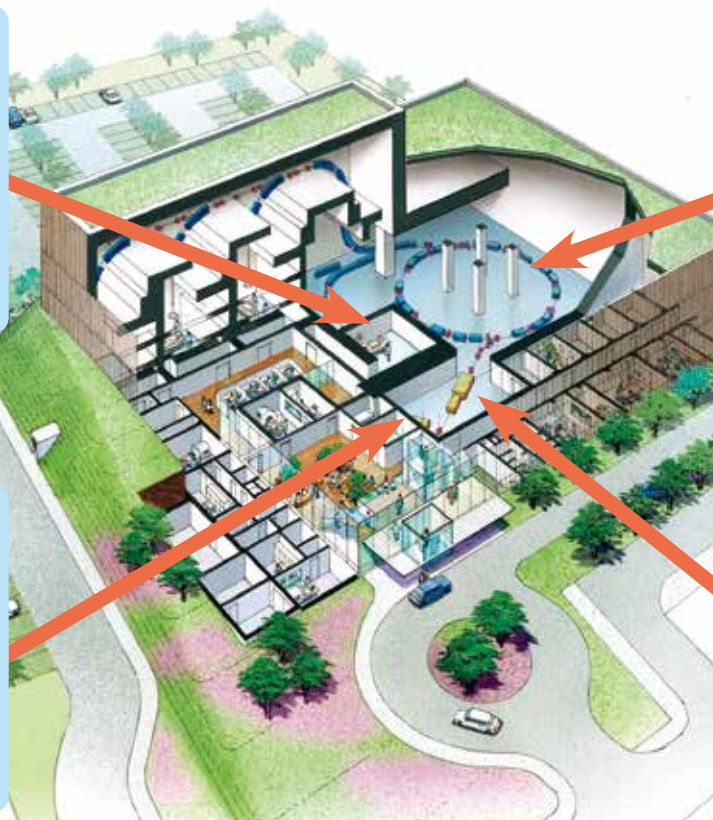


線量分布の比較(重粒子線とエックス線)



治療室

加速された炭素イオンはここで患者さんに照射される。



シンクロトロン加速器

線形加速器から送られた炭素イオンはシンクロトロンの中を周回している間に光速の70%まで加速される。



イオン源装置

ここで化学物質の中の炭素原子から炭素イオンが作られる。



線形加速器

炭素イオンを主加速器であるシンクロトロンに送り込む前に予備的な加速を行う。

本重粒子線照射施設は、縦横約45m×65m、高さ約20mの建築物で、その中に、重粒子（炭素イオン）を最高で光の70%程度の速度まで加速する直径約20mのシンクロトロン加速器と3治療室ならびに付帯設備を持つ。この治療装置は、重粒子線治療の普及を目指して小型化された装置であり、国際的な注目を集めている。

未来先端研究機構

Gunma University Initiative for Advanced Research(GIAR)



HP

未来先端研究機構は、群馬大学の先端的研究を推進する中核組織として2014年4月に設置された。これまで、統合腫瘍学、内分泌代謝・シグナル学、元素科学など本学の強みを生かした分野で、世界水準の研究力の強化に取り組んできた。2024年4月には体制を再編し、「遺伝子治療学研究部門」を新設。次世代シーケンシングなどの先端技術を活用した遺伝子発現制御解析や、腫瘍免疫などの研究を通じて、さらなる研究の高度化を図っている。

また、グローバルレベルの研究展開を図るため、世界トップクラスの海外研究機関から研究者を招へいし、海外ラボラトリーを設置して国際共同研究を実施している。国内外の研究者・研究機関との連携を進めるとともに、グローバルに活躍できる優秀な若手研究人材を育成し、群馬大学の教育研究機能強化のコアとしての役割を担っている。



海外ラボラトリーの研究の様子

ウイルスベクター開発研究センター

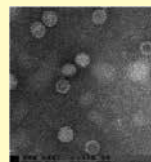
Viral Vector Core

2019年10月に、世界最先端のベクターツール開発と供給を行う研究拠点の構築を目指し、機構内に設置された。難病の遺伝子治療を可能とする高機能ベクターの研究を進め、脳内の特定細胞に作用するアデノ随伴ウイルス (AAV) ベクターの開発・特許出願も行っている。

これまでに開発されたAAVベクターは、国内研究機関を中心に年間約200件が提供されており、日本の生命科学・先端医療研究の発展に大きく貢献している。



研究活動の様子



食健康科学教育研究センター

Gunma University Center for Food Science and Wellness



HP

食健康科学教育研究センターは、「食と健康」に関わる研究の推進及び専門人材の育成により、大学の教育研究及び社会貢献活動等の向上に資するとともに、地方公共団体及び地方産業界等と連携して、地域産業の振興及び社会における健康増進に寄与することを目的として2017年12月に設置された。

本学は、医学系研究科、保健学研究科における食の安全安心に係る分析機能、生体調節研究所における生活習慣病の予防開発機能、理工学府における食品開発・先端加工・製造技術の教育研究機能、さらに共同教育学部や情報学部における食育、健康志向、ブランディングの教育研究機能等を有している。本センターが中心となり、これらの機能を活用して文理の広い分野における食と健康に係る教育研究及び地域貢献を行う。

ユニット	業務内容
健康科学ユニット	食の安全安心に係る支援技術の開発に関すること。
食品開発ユニット	食を通じた生活習慣病の予防・治療法開発に関すること。
食品機能解析ユニット	食品の先端加工・製造技術の開発に関すること。
食マネジメントユニット	食品の新規機能性探索及び開発によるブランディング支援に関すること。
就労女性コホート研究ユニット	食を通じ、女性のライフステージに応じた健康管理及び女性活躍社会への地域活性化への貢献に関すること。



国際シンポジウム講演の様子

■ 数理データ科学教育研究センター

Gunma University Center for Mathematics and Data Science



HP

数理データ科学教育研究センターは、情報数理及びデータサイエンスに関する教育、人材育成、及び、研究の推進を目的として、2017年に設置された。

文部科学省が制定した数理・データサイエンス・AI教育（MDASH）プログラム認定制度に則した教育プログラムを2020年度より全学的に実施し、2021年度にリテラシーレベル、2022年度にリテラシーレベルプラス、2023年度に応用基礎レベル、2024年度に応用基礎レベルプラスに認定され、全ての認定を全学的に受けている。分野横断型である本プログラムはバックグラウンドが異なる全学生が受講し身につけるべき素養となるため、各自が理解度に合わせ繰り返し学べるデジタル教材の活用が重要となる。こうしたオンライン教育法を積極的に取り入れながらも、学生との双方向性を担保し、高い学習効果を得るための授業の雛形づくりを本センターが担っている。



ぐんまDX・データサイエンス地域循環型人材育成交流会の様子

情報数理ユニット

データ科学ユニット

レギュラトリーサイエンスユニット

全学選択教養科目「データサイエンス応用」「Python入門」「データサイエンス・AI・機械学習」（MDASHリテラシー、リテラシーレベルプラス、応用基礎レベル、応用基礎レベルプラス認定済）

■ 多職種連携教育研究研修センター（WHOCC）

WHO Collaborating Centre for Research and Training on Interprofessional Education



HP

多職種連携教育研究研修センターは、多職種連携によるチーム医療実践のための教育課程の研究、国際的保健・医療人材の養成、国際的医療教育機関ネットワークの構築等を目的として設置された。

当施設は、日本で唯一の多職種連携教育に特化した世界保健機関（WHO）協力センターとして、2013年7月にWHOより指定された。国際・地域社会に的確に対応したチーム医療が実践できる保健・医療人材の養成を推進するため、WHOと連携して、教育者及び保健医療関係者に対する研修コースや多職種連携教育ワークショップを提供している。



IPEトレーニングコース（前橋、群馬）



IPE Training Course 2023 in Thailand（バンコク、タイ）

■ 多職種人材育成のための医療安全教育センター（PSEC）

Patient Safety Education Center for Multiprofessionals（PSEC）



HP

※詳細は18ページを参照

■ 共同利用設備統括センター

Joint Usage Facilities Management Center



機器分析センター



共同利用機器部門



ゲノムリソースセンター

学内外の研究設備の共同利用の促進や高度な分析機器を活用できる人材育成等を通じ、学内外の教育研究及び技術開発の発展に寄与することを目的とし、機器分析センター、理工学府産学連携推進部門、医学系研究科共同利用機器部門、生体調節研究所附属生体情報ゲノムリソースセンターで構成している。

機器分析センターでは、近隣の大学等と「りようもうアライアンス」体制を構築し、地域の産学連携を支援する他、学部生を対象とした機器分析の専門人材育成「マイスター育成プログラム」に取り組んでいる。また、共同利用機器部門においては、学内外の依頼分析を積極的に進めており、研究基盤であるコアファシリティの強化を図っている。



マイスター育成プログラムの様子



質量分析等の実験室

共同研究拠点・教育関係拠点

Joint Usage/ Research Center & Education Center

本学では「研究」に関する共同利用・共同研究拠点として生体調節研究所が2010年度から文部科学大臣の認定を受けており、2023年度に「教育」に関する共同利用拠点として多職種人材育成のための医療安全教育センターが文部科学大臣から新たに認定された。

内分泌・代謝学共同研究拠点（生体調節研究所）

Joint Usage/ Research Program for Endocrine/ Metabolism (Institute for Molecular and Cellular Regulation)

生体調節研究所は国内唯一の「内分泌・代謝学」に関する基礎医学研究所であり、生活習慣病やその他内分泌・代謝関連疾患に関する豊富な研究リソース、エピゲノム編集・オルガノイド・多様なモデル生物など独自の先端技術を保有している。2010年からは共同利用・共同研究拠点に認定され、これら研究基盤を国内外の研究者・企業・地域と共有し幅広い研究交流を行っている。それにより内分泌・代謝学分野を牽引する国際イノベーションハブとなることを目指している。



医療安全教育手法に基づく多職種人材育成共同利用拠点 (多職種人材育成のための医療安全教育センター (PSEC))

A Multi-disciplinary Human Resource Development Joint-use Center Based on Patient Safety Education Methods (Patient Safety Education Center for Multiprofessionals) (PSEC)

本拠点は、医療の質・安全学講座、医学教育開発学講座、大学院保健学研究科が連携して、チームワーク、リーダーシップ、システム思考、質改善といった医療安全の視点を取り入れた国際標準の医療安全教育手法に基づき、全国の子職種の人材育成に関わる教員へFD（ファカルティ・ディベロップメント）を行う教育関係共同利用拠点で、リスクが複雑化する現代における高いニーズを踏まえ、医療分野以外への展開も図っていく予定である。



全医療職の養成機関のハブとなる教育関係共同利用拠点

- 1) 医療安全教育手法の国際的な知見を収集・統合
- 2) 医療安全教育コンテンツの開発と共有
- 3) 医療安全教育手法の開発と共有
- 4) 多職種の医療安全教育のネットワーク形成

ダイバーシティ推進センター

Gunma University Center for Diversity and Inclusion



HP

ダイバーシティ推進センターでは、ジェンダー平等はもとより、ジェンダー、障がい、国籍、性的指向、ジェンダーアイデンティティ、宗教、年齢、価値観等の多様性を尊重する環境を整備し、学生や教職員が安心して学び、働けるようにすること、またダイバーシティ&インクルージョン社会の実現に寄与することを目的として2020年4月に設置された。

●研究者のワーク・ライフ・バランス支援

子育て、介護や傷病などのライフイベントにより研究時間の確保が難しい研究者には、研究支援者を配置して仕事と生活との両立を支援している。

●女性の活躍推進

研究者に占める割合が低い女性研究者をさらに増やし、一層活躍できるようにポジティブアクションを実施するとともに、女性研究者が研究リーダーとなる共同研究を促進する事業を行っている。

●男性教職員の育児休業取得促進

育児はカップルがシェアするものという意識の転換により、男性も希望どおり育児休業を取得できるように意識啓発をしている。



意識啓発の取組

グローバル化推進

Drive to Globalization

グローバルイニシアチブセンター

Global Initiative Center

グローバルイニシアチブセンターは、大学における教育のグローバル推進及び国際交流の支援を包括的に行うことを目的として、それまでの大学教育センター外国語教育部会、グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムおよび国際センターを統合した形で、2023年4月に設置された。全学にわたる英語教育企画・運営、国際教育プログラム企画・運営、外国人留学生及び海外留学の支援、日本語教育プログラムの実施、海外の大学等との協定締結など、群馬大学のグローバル人材育成に寄与する多様な取組みを展開している。

●外国語教育／Foreign Language Education

共通教育科目としての初年次英語科目および2年次英語科目（医学科を除く）では、アクティブラーニングの手法の一つであるプロジェクト型学習（PBL）を主軸とした全学統一シラバスに基づく授業を行っており、その一環として、学内で開発した問題解決型教材を活用した、「アウトプットを重視した総合型英語教育」を実践している。これにより、学生は身近な課題や社会的問題に主体的に取り組む力を養うとともに、グローバル人材の育成を見据えた英語教育を展開している。



学内制作教科書



授業の様子：グループディスカッション



ポスターセッション

●GFL（Global Frontier Leader）育成プログラム／GFL Program



HP

卓越したグローバル人材を育てることを目的とした全学的プログラムである。本プログラムに参加するためには、GFL特別推薦入試を受験するか、入学後に応募・選考を経る方法がある。GFL生は、特別に企画・設定されたプログラム（セミナー、特別プログラム、特別講演会、自主的活動、海外留学など）に取り組み、修了者には卒業時に修了証、オープンバッジが授与される。



グローバル交流セミナー・サマーセミナー

GFL 1、2年生や留学生が一堂に会し、学部学年を超え様々な企画で交流を行っている。



多国籍教員による特別プログラム

グループワークやプレゼンテーションを主とした実践的な英語講義に取り組んでいる。



特別講演会

行政・企業等のトップリーダーや先端研究に携わる研究者を学生自ら招聘し講演会を企画開催している。

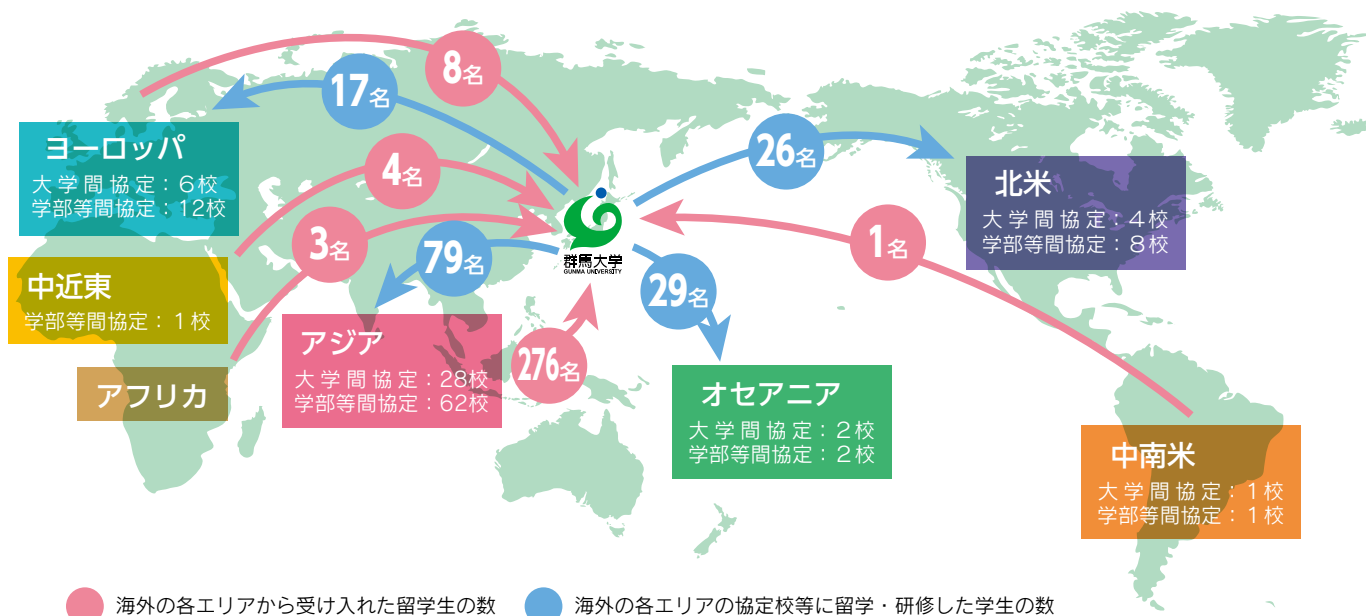


海外留学

GFLオリジナル留学プログラムを準備している。留学支援金、渡航サポートなど支援の充実が特徴となっている。

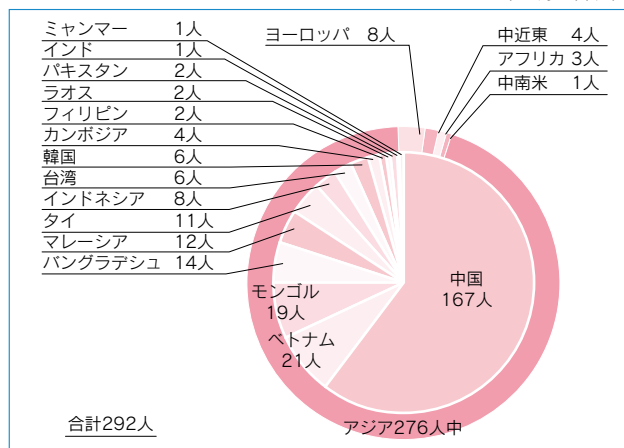
●協定校及び派遣・受入学生数／ Number of Partner Schools and Student Mobility by Region

群馬大学は、世界31カ国1地域の127大学等機関と国際交流協定を締結し、学生交流をはじめとする教育研究活動の国際展開を進めている。
(2025年5月1日現在)



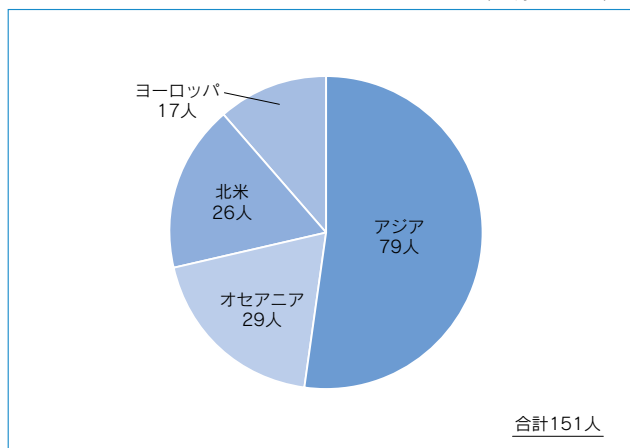
●地域別外国人留学生数 Number of International Students by Region

2025年5月1日現在



●地域別海外への学生派遣人数 Number of Students Studying Abroad by Region

2024年4月～2025年3月



派遣プログラム出発時の様子



留学生のホームルームの様子

■ 地域の企業等との連携によるキャリア開発

Student Career-Development with Local Businesses

学生たちのキャリアビジョンを拓く取組を推進することを目的として、地域の企業等の協力のもと、理工学部と情報学部で取り組んでいるPBL（課題解決型学習：Problem/Project Based Learning）、全学で取り組んでいる「グローバル・ハタラクラスぐんま（GHKG）」プロジェクトなどのキャリア教育やインターシップを実施している。これらの取組は、2023年度に導入された三省合意インターンシップの全類型（【タイプ1～4】）に対応している。

●PBL（Problem/Project Based Learning）【タイプ2】

企業で働くことのマナー、企業の現状・課題などを座学やグループ学習により把握する。企業をはじめ実際の職場の見学や社員との交流、就業体験を行える機会を設け、すべての学生が実社会の活動における課題について自主的に把握できるようにする。

【理工学部のPBL】

2年次に「課題発見セミナー」を実施し、企業見学・就業体験などを通じて課題を抽出。その後4年次の「課題解決セミナー」にてグループワークを実施し、社会で求められる実践的課題解決能力を養う。

【情報学部のPBL】

3年次に実施。人文・社会と自然科学の諸学を通じて全体を統括できるような「融合型」の視点を養うとともに、実社会の課題に対してデータサイエンスの知識を用いて解決策を提案する能力を養う。



●「グローバル・ハタラクラスぐんま（GHKG）」プロジェクト【タイプ1～4】

「卒業後も群馬で暮らし働く」キャリアビジョンを学生たちが積極的に描けるよう、地元企業・自治体との連携のもと、「キャリア教育」「コミュニケーション教育」「中長期インターンシップ」を一体として提供する（年間350時間）。学部・研究科、国籍・地域、学年の壁を越えて参加が可能。外国人留学生の地域定着率が、5年間で1割から6割になるなど、顕著な成果が生まれており、令和3年度には、全国初となる文部科学省認定「留学生就職促進教育プログラム」の選定を受けた。国内からだけでなく、韓国、ドイツ、ベトナム等諸外国から、取組への問合せも増えている。



「本学の25年来的多文化共生の取組に立脚したGHKGの取組は、世界的にも注目を集めている。写真は、2023年7月に日ASEAN特別法務大臣特別イベントの基調講演をする結城恵教授（GHKG企画・運営担当）。

【取組事例1】

（写真左）GHKG【地域対応型】インターンシップ in 沼田市
 課題は「中国成都の展示即売会に参加する、市内3事業者の商品PR動画を作成せよ」。企画・フィールドワーク・動画構成、編集等、事業者や市職員と意見交換しながら学生たちが創り上げた。映像には、事業者の匠の技、商品に込めた思いが表現された。中国の文化や生活のなかで、それぞれの商品がもつ魅力が、学生たちが「文化の翻訳」をして引き出し、母語でのナレーションにも取り組んだ。（写真：沼田市提供）

【取組事例2】

（写真右）GHKG【地域対応型】インターンシップ in JICA
 課題は「フィールドワークを通して群馬県内の多文化共生・共創の地域づくりと外国人材の活躍の可能性を探れ！」。技能実習生を受け入れている企業や開発途上国への技術支援を展開する企業等を訪問し、共生・共創のあり方を検討した。



■ 地域・社会との連携

Projects for the Communities and Societies

教育や研究とともに社会貢献活動、特に地域貢献活動に力を入れている。コミュニティの一員として、地域と共に歩む大学を目指して、各種公開講座や“群馬ちびっこ大学”などのイベント、また各教員や学部等が実施するシンポジウムなどを通じて、県民の皆様、小中高生や大学生、教員、教育委員会や市町村などの自治体の皆様などを対象に、幅広い地域貢献活動を展開。これにより地域の皆様のニーズに応じて、本学の教育・研究活動の成果を社会に還元し、地域を発展させるため努力している。

●こども体験教室「群馬ちびっこ大学」



HP

専門的な学問をわかりやすく、とりわけ小学生にも理解できるように、また興味をわくように行っているのが「群馬ちびっこ大学」。子どもたちは、実体験を通じた学習機会が少なくなってきた。そこで体験的な学習を通じて、学問の面白さ、奥深さを実感することで、将来の日本や世界を担う人材の若い芽を育むことを目的として実施している。2021年度からオンデマンド配信を開始。



ヨーグルトを作ってみよう！

●公開講座・開放講座

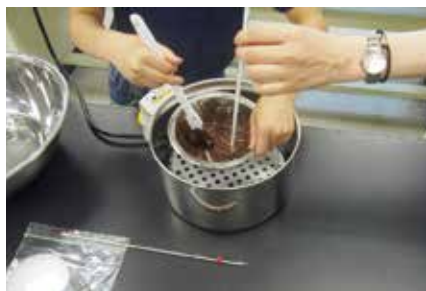


HP

本学がもつ教育・研究の成果を知識と技として広く社会に開放し、地域社会における教育文化の向上に資することを目的に、1988年度から実施。また、2004年度に国立大学が法人化されてからも、引き続き実施している。本年度も共同教育学部、情報学部、医学部及び理工学部の教員等が講師となり、多くの講座を開講している。（詳細：p41）



2024年度公開講座
オンデマンド教材で学ぶ手話ろう文化



2024年度公開講座
チョコレートのおいしさを科学する
ー実験して確かめるテンパリングー



2024年度公開講座
社会起業家特論（社会起業家特論Ⅰ・Ⅱ）

●地域貢献事業

活動内容は、人材育成、地域課題、住民サービス、医療・保健・福祉、産学官連携、文化交流、小中学生に対する理科体験教室など、多方面にわたっている。学長のリーダーシップのもと、地域連携推進室を中核として、学内外の各組織や教員個人などと連携し、事業を実施している。（詳細：p42、43）



'24 summer オープンラボ student programme



群大生が受け継ぐ
天明3年の浅間山大噴火と復興支援



北関東精神保健看護研究会

資料編／Data

Contents

資料編

沿革 History	24 – 27
管理運営組織、学長の補佐体制、事務組織 Administrative Organization, University Officers, Administration	28
教育・研究組織 Academic Organization	29
役員及び主な役職者等 President and Directors	30 – 31
学生の数 Number of Students	32 – 33
文部科学省認定プログラム Programs admitted by MEXT	33
入学志願状況等、学部入学者の出身地区別内訳 Admission Applicants etc, Number of Freshman by Prefectures	34
卒業・修了者数・学位授与者数 Number of Graduates	35
卒業後の状況 After Graduation	36
国際交流 International Exchange	37 – 39
附属施設 Affiliated Facilities	40
公開講座、開放講座、オンデマンド講座 Extension Lectures, Open Lectures, On-Demand Lectures	41
地域貢献事業一覧 Programs for Community Contribution	42 – 43
収入・支出予算額、研究費等獲得・受入状況 Revenue Expenditure Budget, Research Grants	44 – 45
主な競争的研究費 Principal Competitive Research Fund	45
土地・建物面積、学部等所在地分布図 Land and Buildings, Campus Location	46
学部等所在地 Address of Faculties	47
建物配置図（荒牧地区、昭和地区） Campus Map(Aramaki Campus, Showa Campus)	48
建物配置図（桐生地区、太田地区） Campus Map(Kiryu Campus, Ota Campus)	49
交通アクセス（荒牧、昭和、若宮、上沖地区） Access(Aramaki/Showa/Wakamiya/Kamioki Campus)	50
交通アクセス（桐生、太田地区） Access(Kiryu/Ota Campus)	51
刊行物（パンフレット等）、学年暦 Publication, Academic Calendar	52

小学校教員伝習所
(1873.2)

暢発学校
(1873.6)

群馬県師範学校
(1876.9)

群馬県尋常師範学校
(1886.4)

農業講習科
(1918.3)

群馬県実業補習
学校教員養成所
(1921.8)

桐生高等染織学校
(1915.12)

桐生高等工業学校
(1920.4)

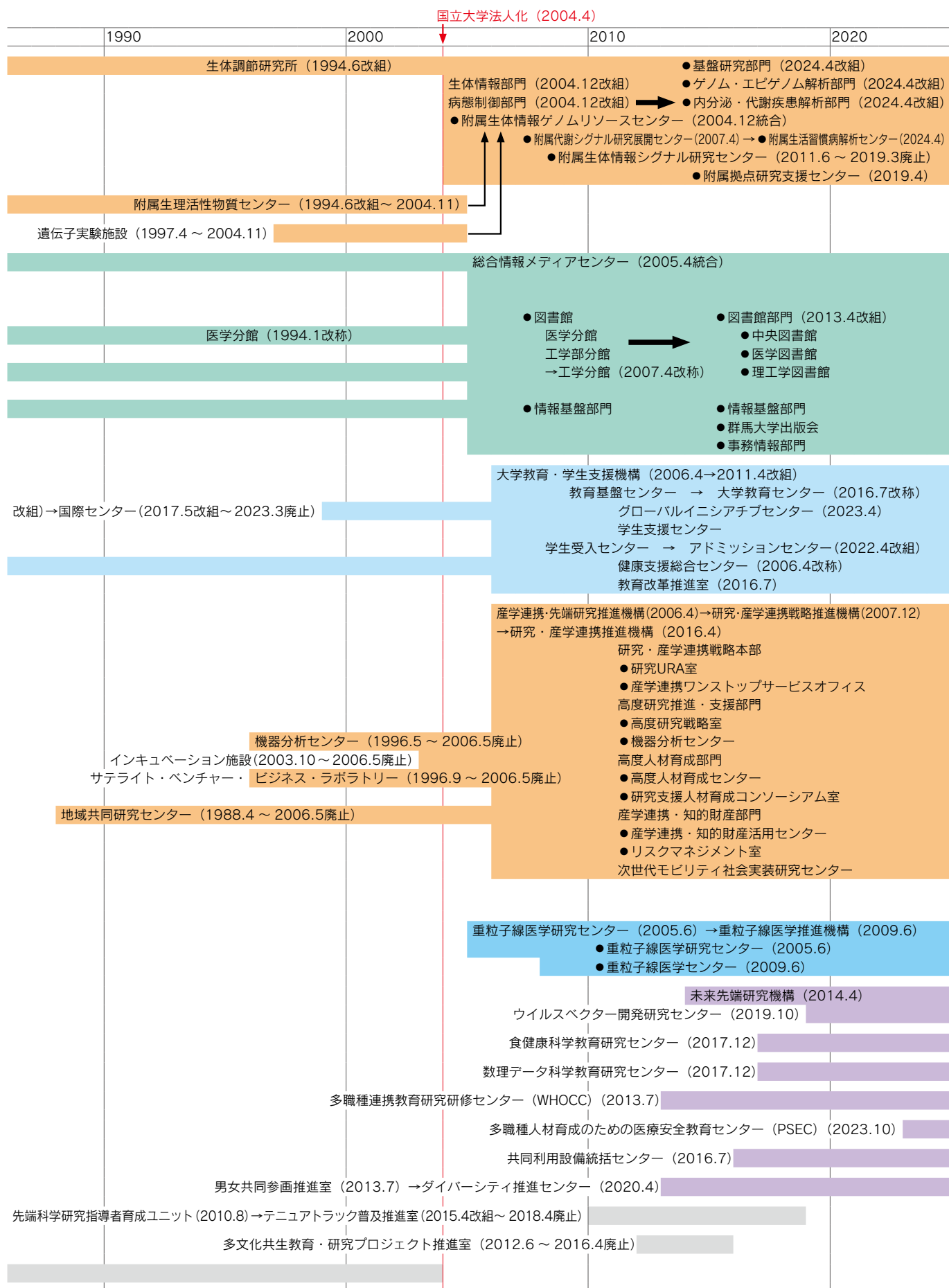
●学部・大学院・附属施設等

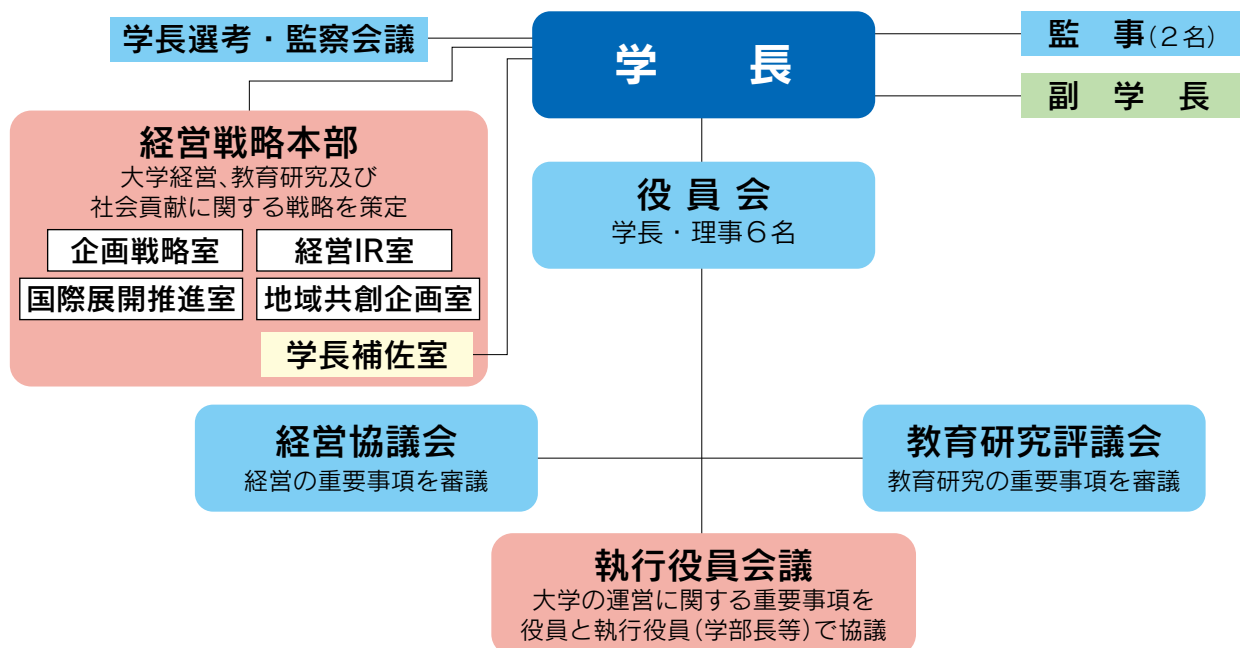
教育学部 荒牧キャンパスに移転 (1970)

西暦	1950	1960	1970	1980
	学芸学部（1949.5）		教育学部（1966.4改組）	
	附属小学校・附属中学校・附属幼稚園（1951.4）			
	学芸専攻科（1965.4）→教育専攻科（1966.4改称～1990.3廃止）			附属養護学校（1979.4）
	附属教育実践研究			
医学部（1949.5）				
附属病院（1949.5）				
草津分院（1952.4～2002.3廃止）				
附属看護婦養成施設（1949.6）→附属看護学校（1951.4改称～1980.3廃止）				
附属助産婦学校（1965.4～1982.3廃止）				
附属衛生検査技師学校（1966.1）→附属臨床検査技師学校（1972.4改称～1981.3廃止）				
附属行動医学研究施設（1965.4～2003.3廃止）				
医学部附属動物実験施設（1973.4～2003.3廃止）				
医学部附属薬剤耐性菌実験施設（1978.4～2003.3廃止）				
大学院医学研究科（1955.7）				
工学部（1949.5）				
附属繊維工業研究施設（1956.4）		附属応用複合材料研究施設（1974.4改組～1989.10廃止）		
大学院工学研究科（1964.4）				
工業短期大学部（1953.8～1992.3廃止）				
教養部（1965.4～1993.9廃止）				

●機構・学内施設等

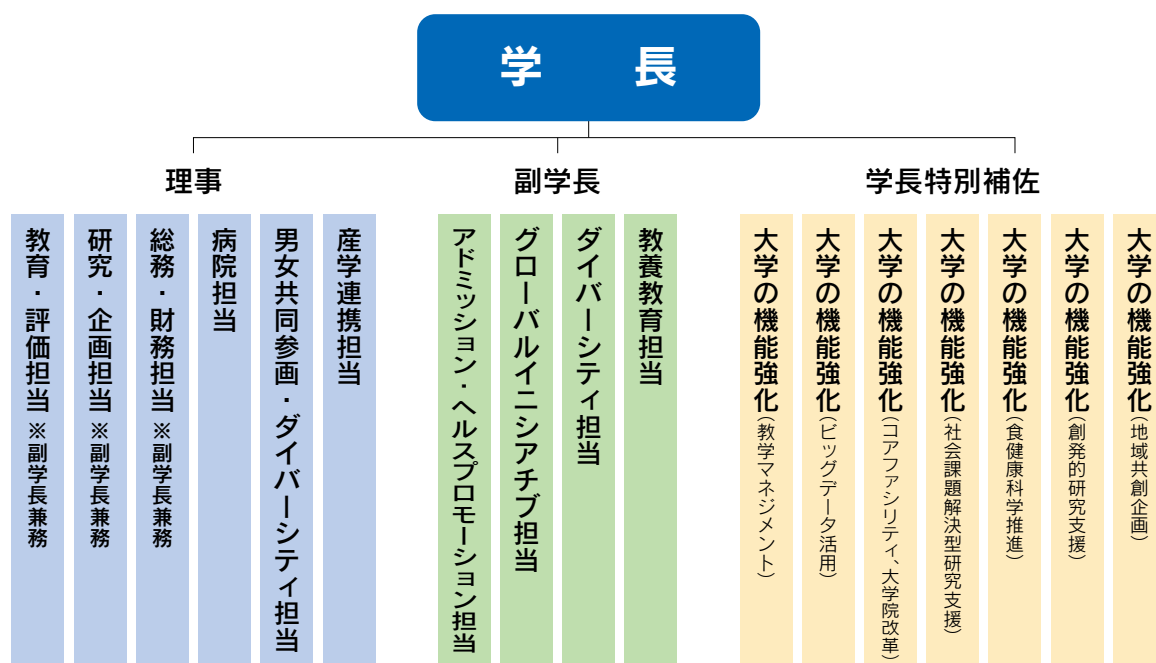
西暦	1950	1960	1970	1980
	医学部附属内分泌研究施設（1951.4～1963.3廃止）→内分泌研究所（1963.4）			
			附属ホルモン測定センター（1972.5）	
	附属図書館（1949.5）			
	学芸学部分館→ 教育学部分館（1966.4改称）		↑ 1967.4統合	
	医学部分館			
	工学部分館			
		情報処理センター（1984.12）→総合情報処理センター（1999.4）		
		留学生センター（1999.4）→国際教育・研究センター（2008.12）		
		保健管理センター（1977.4）（2006.3廃止）		
		特殊廃液処理施設（1976.7～2004.3廃止）		





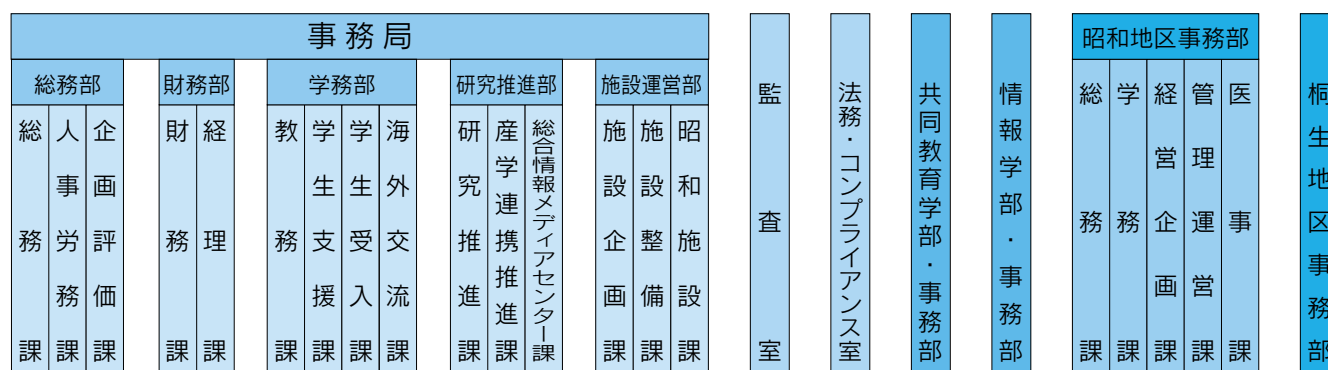
学長の補佐体制

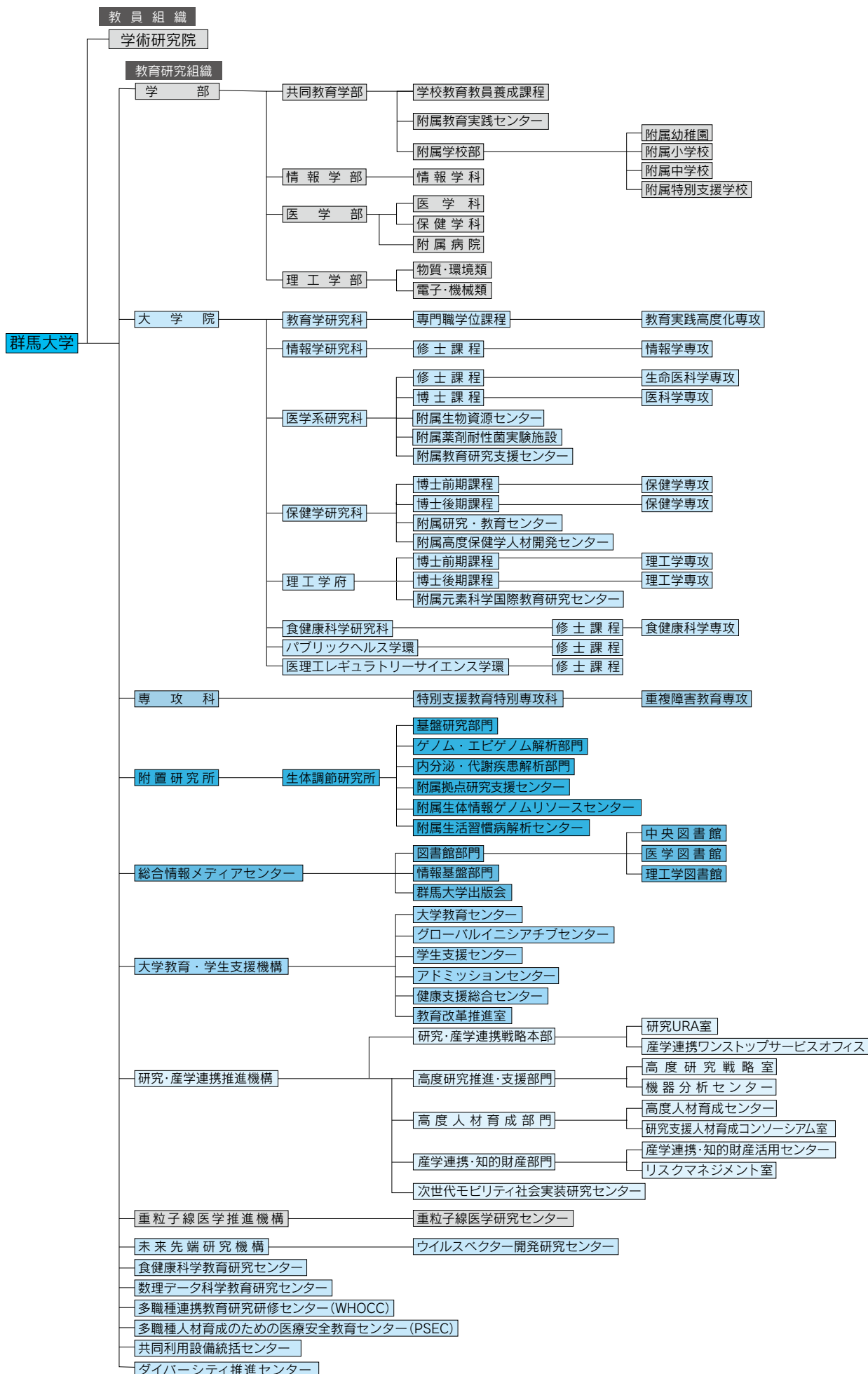
University Officers



事務組織

Administration





役員／執行役員／副学長／学長特別補佐／顧問

2025年5月1日現在

Member of the Board/ Executive Officer/ Vice President/ Special Advisor to the President/ Senior Advisor to the President

役員	
学長	石 崎 泰 樹
理事（教育・評価担当）	飯 島 睦 美
理事（研究・企画担当）	花 屋 実
理事（総務・財務担当）	坂 本 淳 一
理事（病院担当）	齋 藤 繁
理事（学長特命（男女共同参画・ダイバーシティ）・非常勤）	五十嵐 優 子
理事（学長特命（産学連携）・非常勤）	近 藤 潤
監事	長谷川 健
監事（非常勤）	丸 山 和 貴

執行役員	
共同教育学部長	藤 森 健太郎
情報学部長	伊 藤 賢 一
医学系研究科長、医学部長	調 憲
保健学研究科長	齋 藤 貴 之
理工学部長	石 間 経 章
食健康科学研究科長	粕 谷 健 一
生体調節研究所長	藤 谷 与士夫
大学教育・学生支援機構アドミッションセンター長	板 橋 英 之

副 学 長	
教育・評価担当	飯 島 睦 美
研究・企画担当	花 屋 実
総務・財務担当	坂 本 淳 一
アドミッション・ヘルスプロモーション担当	板 橋 英 之
グローバルイニシアチブ担当	渡 部 孝 子
ダイバーシティ担当	小和瀬 桂 子
教養教育担当	尾 崎 広 明

学長特別補佐	
大学の機能強化（ビッグデータ活用）	片 山 佳代子
大学の機能強化（教学マネジメント）	栗 原 淳 一
大学の機能強化（コアファシリティ、大学院改革）	南 嶋 洋 司
大学の機能強化（社会課題解決型研究支援）	弓 仲 康 史
大学の機能強化（食健康科学推進）	井 上 裕 介
大学の機能強化（創発的研究支援）	服 部 奈緒子
大学の機能強化（地域共創企画）	小 竹 裕 人

顧 問	
元群馬大学長（第10代）	鈴 木 守
元群馬大学長（第11代）	高 田 邦 昭
前群馬大学長（第12代）	平 塚 浩 士
元経営協議会委員、元学長選考・監察会議委員	曾 我 孝 之

学長選考・監察会議／経営協議会／教育研究評議会

2025年6月18日現在

Committee of Presidential Selection & Audit/Management/Education & Research

学長選考・監察会議			
経営協議会	内 山 充	株式会社上毛新聞社相談役	
経営協議会	沖 永 寛 子	学校法人帝京平成大学学長	
経営協議会	金 子 昌 彦	前橋商工会議所会頭	
経営協議会	吉 武 博 通	学校法人東京家政学院理事長、筑波大学名誉教授	
評議員	調 憲	医学系研究科長	
評議員	石 間 経 章	理工学部長	
評議員	藤 森 健太郎	共同教育学部長	
評議員	齋 藤 貴 之	保健学研究科長	

経営協議会			
1. 議長	石 崎 泰 樹	学長	
2. 学外委員	内 山 充	株式会社上毛新聞社相談役	
	沖 永 寛 子	学校法人帝京平成大学学長	
	金 子 昌 彦	前橋商工会議所会頭	
	津久井 治 男	群馬県副知事	
	深 井 彰 彦	株式会社群馬銀行代表取締役頭取	
	吉 武 博 通	学校法人東京家政学院理事長、筑波大学名誉教授	
3. 学内委員	飯 島 睦 美	理事（教育・評価担当）	
	花 屋 実	理事（研究・企画担当）	
	坂 本 淳 一	理事（総務・財務担当）	
	齋 藤 繁	理事（病院担当）	

教育研究評議会			
1. 議長	石 崎 泰 樹	学長	
2. 評議員	飯 島 睦 美	理事（教育・評価担当）	
	花 屋 実	理事（研究・企画担当）	
	坂 本 淳 一	理事（総務・財務担当）	
	齋 藤 繁	理事（病院担当）	
	五十嵐 優 子	理事（学長特命（男女共同参画・ダイバーシティ）・非常勤）	
	近 藤 潤	理事（学長特命（産学連携）・非常勤）	
	藤 森 健太郎	共同教育学部長	
	伊 藤 賢 一	情報学部長	
	調 憲	医学系研究科長	
	齋 藤 貴 之	保健学研究科長	
	石 間 経 章	理工学部長	
	粕 谷 健 一	食健康科学研究科長	
	大 山 良 雄	パブリックヘルス学環長	
	花 泉 修	医理工レギュラトリーサイエンス学環長	
	藤 谷 与士夫	生体調節研究所長	
	板 橋 英 之	大学教育・学生支援機構アドミッションセンター長	
	霜 田 浩 信	共同教育学部教授	
	奥 寛 雅	情報学部教授	
	岸 美紀子	医学系研究科教授	
	久 田 剛 志	保健学研究科教授	
	園 山 正 史	理工学部教授	
	大 西 浩 史	保健学研究科教授（食健康科学研究科）	
	稲 垣 毅	生体調節研究所教授	

歴代学長／University Presidents

代 数	氏 名	在 任 期 間
初 代	西 成 甫	昭和24. 5. 31～昭和36. 6. 20
（事務取扱）	相 葉 伸	〃 36. 6. 21～〃 36. 7. 13
第 2 代	長谷川 秀 治	〃 36. 7. 14～〃 42. 7. 13
（事務取扱）	柴 田 勝 博	〃 42. 7. 14～〃 42. 8. 31
第 3 代	秋 月 康 夫	〃 42. 9. 1～〃 46. 8. 31
（事務取扱）	町 田 周 郎	〃 46. 9. 1～〃 46. 12. 15
第 4 代	石 原 恵 三	〃 46. 12. 16～〃 50. 12. 15
第 5 代	畑 敏 雄	〃 50. 12. 16～〃 56. 12. 15
第 6 代	小 野 周	〃 56. 12. 16～〃 60. 12. 15

代 数	氏 名	在 任 期 間
第 7 代	前 川 正	昭和60. 12. 16～平成 3. 12. 15
第 8 代	石 川 英 一	平成 3. 12. 16～〃 9. 12. 15
第 9 代	赤 岩 英 夫	〃 9. 12. 16～〃 15. 12. 15
第 10 代	鈴 木 守	〃 15. 12. 16～〃 16. 3. 31
（国立大学法人 群馬大学長）	鈴 木 守	〃 16. 4. 1～〃 21. 3. 31
第 11 代	高 田 邦 昭	〃 21. 4. 1～〃 27. 3. 31
第 12 代	平 塚 浩 士	〃 27. 4. 1～令和 3. 3. 31
第 13 代	石 崎 泰 樹	令和 3. 4. 1～現在

学部長等／Deans

2025年5月1日現在

共同教育学部			
学部長	藤 森 健太郎		
事務長	姉 崎 英 広		
附属教育実践センター長	栗 原 淳 一		
附属学校部長	上 原 永 次		
附属幼稚園長	山 藤 こず恵		
附属小学校長	足 達 哲 也		
附属中学校長	栗 本 郁 夫		
附属特別支援学校長	城 田 謙 司		
大学院教育学研究科			
研究科長	藤 森 健太郎		
情報学部			
学部長	伊 藤 賢 一		
事務長	湯 本 直 哉		
大学院情報学研究科			
研究科長	伊 藤 賢 一		
医学部			
学部長	調 憲		
大学院医学系研究科			
研究科長	調 憲		
附属生物資源センター長	松 崎 利 行		
附属薬剤耐性菌実験施設長	富 田 治 芳		
大学院保健学研究科			
研究科長	齋 藤 貴 之		
医学部附属病院			
病院長	齋 藤 繁		
理工学部			
学部長	石 間 経 章		
大学院理工学府			
学府長	石 間 経 章		
大学院食健康科学研究科			
研究科長	粕 谷 健 一		
パブリックヘルス学環			
学環長	大 山 良 雄		
医理工レギュラトリーサイエンス学環			
学環長	花 泉 修		
生体調節研究所			
所長	藤 谷 与士夫		
附属拠点研究支援センター長	藤 谷 与士夫		
附属生体情報ゲノムリソースセンター長	平 井 宏 和		
附属生活習慣病解析センター長	北 村 忠 弘		
総合情報メディアセンター			
センター長	坂 本 淳 一		
大学教育・学生支援機構			
機構長	飯 島 睦 美		
副機構長	尾 崎 広 明		
大学教育センター長	尾 崎 広 明		
グローバルイニシアチブセンター長	渡 部 孝 子		
学生支援センター長	佐 藤 由 美		
アドミッションセンター長	板 橋 英 之		
健康支援総合センター長	齋 藤 繁		
教育改革推進室長	飯 島 睦 美		
研究・産学連携推進機構			
機構長	花 屋 実		
副機構長	園 山 正 史		
研究URA室長	花 屋 実		

産学連携ワンストップサービスオフィス室長	園 山 正 史		
高度研究推進・支援部門長	稲 垣 禎 彦		
高度研究戦略室長	谷 川 直 紀		
機器分析センター長	浅 川 紀 史		
高度人材育成部門長	園 本 正 行		
高度人材育成センター長	本 島 正 宏		
研究支援人材育成コンソーシアム室長	本 伊 藤 正 宏		
産学連携・知的財産部門長	藤 原 樹 祐		
産学連携・知的財産活用センター長	藤 原 樹 祐		
リスクマネジメント室長	西 村 淑 子		
次世代モビリティ社会実装研究センター長	天 谷 賢 児		
重粒子線医学推進機構			
機構長	齋 藤 繁 也		
重粒子線医学研究センター長	大 野 達 也		
未来先端研究機構			
機構長	花 屋 実		
数理データ科学教育研究センター			
センター長	青 木 悠 樹		
食健康科学教育研究センター			
センター長	粕 谷 健 一		
ダイバーシティ推進センター			
センター長	小和瀬 桂 子		
監査室 法務・コンプライアンス室			
監査室長	小 林 泰 治		
法務・コンプライアンス室長	小 林 泰 治		
事務局			
事務局長・副学長	坂 本 淳 一		
総務部長	中 名 由 論		
総務課長	飯 中 由 論		
人事労務課長	茂 木 克 之		
企画評価課長	小 池 讓 二		
財務部長	小 鈴 康 彦		
財務課長	浅 井 昌 務		
経理課長	宮 路 浩 一		
学務部長	鈴 木 伸 一		
教務課長	加 藤 ひとみ		
学生支援課長	塚 邊 健 一		
学生受入課長	渡 辺 孝 子		
海外交流課長	三 野 好 隆		
研究推進部長	安 東 正 夫		
研究推進課長	小 金 沢 茂 樹		
産学連携推進課長	福 島 恭 令		
総合情報メディアセンター課長	渡 辺 正 博		
施設運営部長	細 井 英 和		
施設企画課長	渡 辺 正 博		
施設整備課長	渡 辺 正 博		
昭和施設課長	齊 藤 樹 秀		
大学戦略担当部長	坂 本 和 秀		
昭和地区事務部			
事務部長	高 橋 明 幸		
事務部次長	岡 本 博 睦		
総務課長	四方 睦 正		
学務課長	楯 佐 藤 忍		
経営企画課長	佐 藤 勝 則		
管理運営課長	関 野 村 恵 子		
医事課長	関 野 村 恵 子		
桐生地区事務部			
事務部長・事務課長	加 藤 幸 生		

職員の数／Number of Staffs

2025年5月1日現在

区分	役員	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	養護教諭	事務職員	技術職員等	総計
共同教育学部		30	36	6	1		83	3	17	2	178
大学院教育学研究科		7	2	1							10
情報学部		19	20	1	4	2			10		56
医学部						1				3	4
大学院医学系研究科		38	27	20	51					2	138
大学院保健学研究科		27	14	3	24						68
医学部附属病院		1	8	35	141				1	1,060	1,246
桐生地区事務部									27	2	29
大学院理工学府		63	54	1	31	1					150
生体調節研究所		10	6	2	17	1				1	37
総合情報メディアセンター		1		1						1	3
大学教育・学生支援機構		3	6	6	1					4	20
研究・産学連携推進機構		1	2							4	7
重粒子線医学推進機構		2		1	12						15
未来先端研究機構		2	1		2						5
数理データ科学教育研究センター		4		1	2						7
食健康科学教育研究センター		1	2	2	2						7
ダイバーシティ推進センター		1									1
多職種人材育成のための医療安全教育センター					1						1
技術院										41	41
事務局等	6								146	13	165
昭和地区事務部									147	11	158
総計	6	210	178	80	289	5	83	3	348	1,144	2,346

※非常勤役員、育休、休職を除く

※アドミッション・コーディネータ、研究URA、特別研究員は技術職員等として計上

学部／Faculties

2025年5月1日現在（人）

学部	学科等	入学定員	収容定員	現 員						
				1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	総計
教育学部	学校教育教員養成課程	0	0	0	0	0	4			4
共同教育学部	学校教育教員養成課程	190	760	202	204	200	217			823
社会情報学部	社会情報学科	0	0	0	0	0	6			6
情報学部	情報学科	170	700	187	174	190	187			738
医学部	医学科	110	725	118	139	136	127	126	116	762
	保健学科	160	660	163	163	165	158			649
	計	270	1,385	281	302	301	285	126	116	1,411
理工学部	化学・生物化学科	0	0	0	0	2	4			6
	機械知能システム理工学	0	0	0	2	4	9			15
	環境創生理工学科	0	0	0	0	1	3			4
	電子情報理工学科	0	0	0	1	9	6			16
	総合理工学科	0	0	0	0	0	1			1
	物質・環境類	285	1,160	301	322	302	286			1,211
	電子・機械類	185	766	203	211	202	205			821
	計	470	1,926	504	536	520	514			2,074
合計		1,100	4,771	1,174	1,216	1,211	1,213	126	116	5,056

大学院／Graduate Schools

2025年5月1日現在（人）

研究科等		専攻・プログラム等	入学定員	収容定員	現員				
					1年次	2年次	3年次	4年次	総計
大学院教育学研究科	専門職学位課程	教育実践高度化専攻	20	40	23	26			49
大学院社会情報学研究科	修士課程	社会情報学専攻	0	0	0	6			6
大学院情報学研究科	修士課程	情報学専攻	60	120	47	39			86
大学院医学系研究科	修士課程	生命医科学専攻	13	28	8	14			22
	博士課程	医科学専攻	55	226	55	47	46	77	225
	計		68	254	63	61	46	77	247
大学院保健学研究科	博士前期課程	保健学専攻	50	100	50	59			109
	博士後期課程	保健学専攻	10	30	15	11	29		55
	計		60	130	65	70	29		164
大学院理工学府	博士前期課程	理工学専攻	223	477	273	358			631
	博士後期課程	理工学専攻	34	112	29	47	38		114
	計		257	589	302	405	38		745
大学院食健康科学研究科	修士課程	食健康科学専攻	40	40	52	0			52
大学院/パブリックヘルス学環	修士課程	パブリックヘルス学環	(5) ※ 1	10	6	6			12
大学院医理工レギュラトリーサイエンス学環	修士課程	医理工レギュラトリーサイエンス学環	(5) ※ 2	10	4	6			10
合計			505	1,173	562	619	113	77	1,371

※1 入学定員のうち3人は医学系研究科修士課程の内数、2人は保健学研究科博士前期課程の内数。

※2 入学定員のうち3人は医学系研究科修士課程の内数、2人は理工学府博士前期課程の内数。

研究科等	専攻・プログラム等	入学定員	収容定員	現 員				
				1年次	2年次	3年次	4年次	総計
特別支援教育特別専攻科	重複障害教育専攻	15	15	5				5
合計		15	15	5				5

文部科学省認定プログラム

Programs admitted by MEXT

制度	プログラム名称	主たる担当部署等	認定等期間	内容
留学生就職促進教育プログラム認定制度	グローバル・リーダーシップ・プログラム	グローバル・ハタラクラスぐんまプロジェクト推進室	2021年度～2025年度	正規の授業科目「ビジネス日本語」1科目、「キャリア教育」1科目、「インターンシップ」2科目の合計4科目が必修となっている。これらの科目は相互に関連づけられており、留学生は、必要なフォローを受けつつこの関連を意識して学ぶことにより、日本で就職する際の関門であるビジネス日本語と日本企業の文化・慣習などを総合的に理解でき、日本人学生と互角に就活を戦えるようになる。
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 リテラシーレベル	データ・サイエンス	大学教育・学生支援機構 数理データ科学教育研究センター	2021年度～2025年度	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」は数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定・選定し奨励することを目的とした制度である。このうち「リテラシーレベル」のプログラムでは、これらを適切に理解し活用する基礎的な能力を習得させる。
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 リテラシーレベルプラス	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシープラス）	大学教育・学生支援機構 数理データ科学教育研究センター	2022年度～2025年度	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」は数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定・選定し奨励することを目的とした制度である。このうち「リテラシーレベルプラス」のプログラムは、リテラシーレベルに加え先導的で独自の工夫・特色を有している。
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 応用基礎レベル	群馬大学応用基礎レベル教育プログラム	大学教育・学生支援機構 数理データ科学教育研究センター	2023年度～2027年度	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」は数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定・選定し奨励することを目的とした制度である。このうち「応用基礎レベル」のプログラムでは、課題を解決するための実践的な能力を習得させる。
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 応用基礎レベルプラス	群馬大学応用基礎レベルプラス教育プログラム	大学教育・学生支援機構 数理データ科学教育研究センター	2023年度～2027年度	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」は数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定・選定し奨励することを目的とした制度である。このうち「応用基礎レベルプラス」のプログラムは、応用基礎レベルに加え先導的で独自の工夫・特色を有している。
職業実践力育成プログラム	群馬大学共同教育学部日本手話実践力育成プログラム	手話サポーター養成プロジェクト室	2023年度～2025年度	厚生労働省の手話奉仕員・手話通訳者養成カリキュラムの基準を満たした授業を、夜間・休日にリアルタイム双方向のオンライン形態で開講することで、社会人の方々が、手話及び手話通訳のスキルの習得を目指すことを目的とする。 プログラムは2つのコースから構成され、ベーシックコースは、厚生労働省が指定する「手話奉仕員」養成カリキュラム修了相当の単位認定を満たす。アドバンスコースは、厚生労働省が指定する「手話通訳者」養成カリキュラム修了相当の単位認定を満たす。

入学志願状況（2025年度）／ Number of Applicants 2025

学 部	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
共同教育学部	190	394 (4)	435 (2)	829 (6)	4.4	79	123	202
情報学部	170	506 (6)	190 (4)	696 (10)	4.1	129 (1)	57	186 (1)
医学部医学科	110	302	172	474	4.3	64	46	110
医学部保健学科	160	142	570	712	4.5	32	128	160
理工学部	470	795 ⁽¹⁶⁾ _[4]	279 ⁽⁵⁾ _[1]	1,074 ⁽²¹⁾ _[5]	2.3	348 ⁽²⁾ _[4]	131 ⁽¹⁾ _[1]	479 ⁽³⁾ _[5]
計	1,100	2,139 ⁽²⁶⁾ _[4]	1,646 ⁽¹¹⁾ _[1]	3,785 ⁽³⁷⁾ _[5]	3.4	652 ⁽³⁾ _[4]	485 ⁽¹⁾ _[1]	1,137 ⁽⁴⁾ _[5]

注：（ ）内の数字は私費外国人留学生入試を表し、外数である。
 [] 内の数字はマレーシア政府派遣留学生を表し、外数である。

2年次編入学（2025年度）／ Admission for Second-year Transfer

学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
医学部医学科	15	110	114	224	14.9	5	10	15

3年次編入学（2025年度）／ Admission for Third-year Transfer

学部等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
情報学部	10	31	11	42	4.2	9	2	11
医学部保健学科	10	—	1	1	0.1	—	—	—
理工学部	23	77 (4)	18	95 (4)	4.1	19 (3)	6	25 (3)
計	43	108 (4)	30	138 (4)	3.2	28 (3)	8	36 (3)

注：（ ）内の数字は理工学部・ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入学志願者及び入学者を表し、外数である。

学部入学者の出身地区別内訳

Number of Freshman by Prefectures

2025年5月1日現在（人）

※外国人留学生を除く

北海道	13	関東	894	中部	143	近畿	8	四国	4	九州	6
東北	52	茨城県	30	新潟県	33	三重県	1	徳島県	1	福岡県	3
青森県	8	栃木県	83	富山県	4	滋賀県	1	香川県	—	佐賀県	1
岩手県	11	群馬県	541	石川県	6	京都府	1	愛媛県	2	長崎県	—
宮城県	8	埼玉県	143	福井県	3	大阪府	1	高知県	1	熊本県	—
秋田県	8	千葉県	19	山梨県	9	兵庫県	3	中国	10	大分県	—
山形県	9	東京都	58	長野県	37	奈良県	—			宮崎県	—
福島県	8	神奈川県	20	岐阜県	7	和歌山県	1			鹿児島県	2
				静岡県	28					沖縄	2
				愛知県	16						
								鳥取県	3	その他	5
								島根県	2		
								岡山県	3		
								広島県	2		
								山口県	—		

2024年度卒業・修了者数／Number of Graduates 2024

区分 学部		学部	大 学 院									専攻科	合 計
			修士課程			博士課程			専門職学位課程				
			男	女	計	男	女	計	男	女	計		
教 育 学 部		2							12	11	23	4	29
共 同 教 育 学 部		194											194
社 会 情 報 学 部		8	5	2	7								15
情 報 学 部		171											171
医 学 部	医 学 科	112	6	2	8	25	10	35					155
	保 健 学 科	155	19	33	52	5	0	5					212
理 工 学 部	昼間コース	464	256	72	328	11	5	16					808
	フレックス	4											4
計		1,110	286	109	395	41	15	56	12	11	23	4	1,588

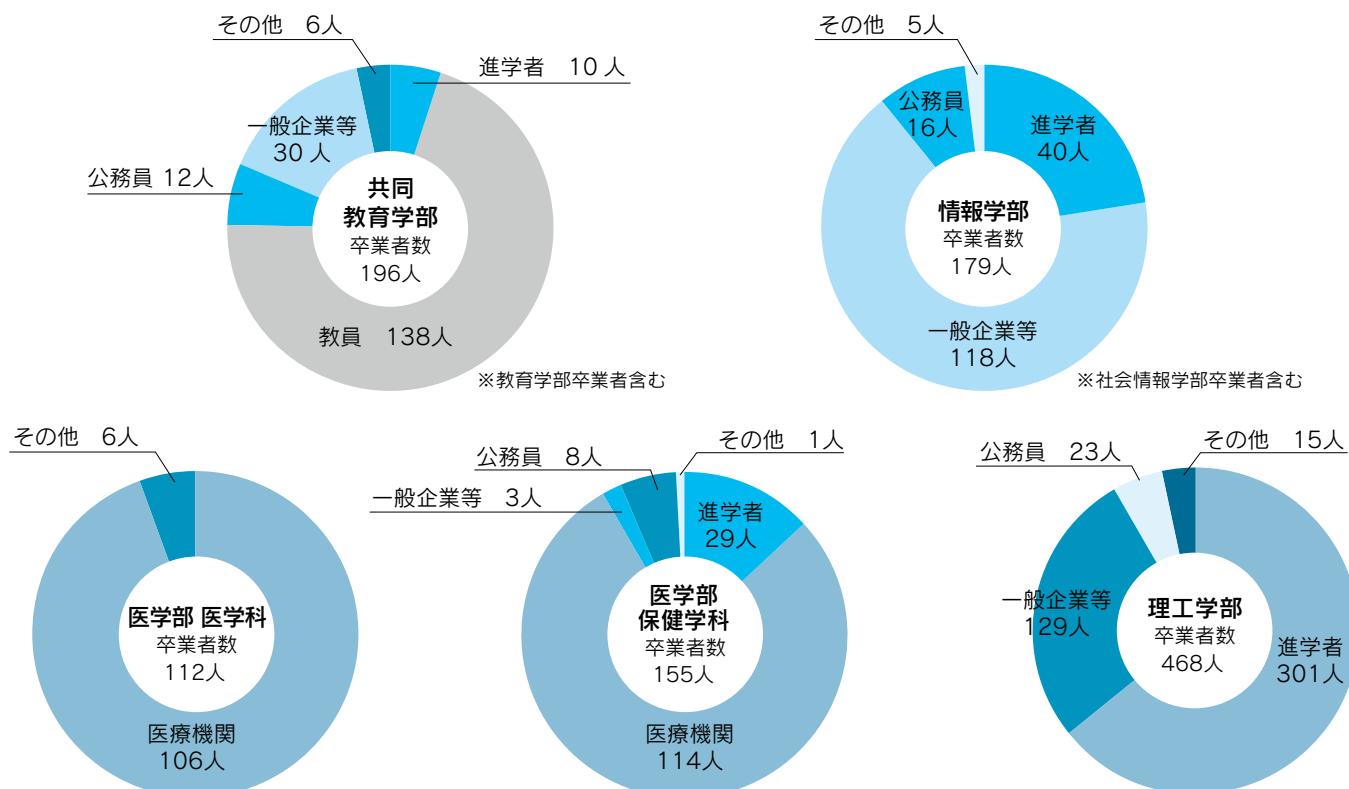
卒業・修了者数（累計）／Number of Alumni (Accumulated)

区分 学部		学部	大学院			専攻科	臨時教員 養成課程	2年課程	合計
			修士	博士	専門職				
教 育 学 部		18,233	1,061		266	469	235	1,419	21,683
共 同 教 育 学 部		381							381
社 会 情 報 学 部		3,211	298						3,509
情 報 学 部		171							171
医 学 部		10,713	1,244	2,214					14,171
医学科		6,481	168	2,029					8,678
保健学科		4,232	1,076	185					5,493
理 工 学 部		4,789	3,493	142					8,424
工 学 部		27,181	7,367	516		47			35,111
計		64,679	13,463	2,872	266	516	235	1,419	83,450
医療技術短期大学部		2,647				340			2,987
工業短期大学部		4,886							4,886

学位授与者数（累計）

種類	計
博士（医学）	3,448
課程修了	2,029
論文提出	1,419
博士（保健学）	187
課程修了	170
論文提出	17
博士（看護学）	15
課程修了	15
論文提出	0
博士（理工学）	177
課程修了	142
論文提出	35
博士（工学）	643
課程修了	516
論文提出	127
修士（教育学）	1,061
修士（社会情報学）	298
修士（生命医科学）	168
修士（保健学）	986
修士（看護学）	90
修士（理工学）	3,493
修士（工学）	7,367
教職修士（専門職）	266

学部卒業者の進路状況（2024年度 ※9月卒業者を含む） Career of Undergraduate Graduates 2024



大学院修了者の進路状況（2024年度 ※年度内修了者を含む） Career of Graduate School Graduates 2024

研究科			区分	修了者数	進学者数	就 職 者 数							その他
						教員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	その他法人等	計	
教 育 学 科	専門職学位課程	教育実践高度化専攻	23		23							23	
社会情報学 研 究 科	修 士 課 程	社会情報学専攻	7				2	1	1			4	3
医 学 系 研 究 科	修 士 課 程	生命医科学専攻	8			1	6		1			8	
	博 士 課 程	医 科 学 専 攻	35		3	25	1	1	2			32	3
保 健 学 科	博士前期課程	保 健 学 専 攻	52	9	5	28	6	2				41	2
	博士後期課程	保 健 学 専 攻	5		4			1				5	
理 工 学 府	博士前期課程	理 工 学 専 攻	328	16	1		300	6				307	5
	博士後期課程	理 工 学 専 攻	16		6		6					12	4
計			474	25	42	54	321	11	4	0	432	17	

専攻科修了者の進路状況（2024年度） Career of Special Graduate Course's Graduates 2024

専攻科	区分	修了者数	進学者数	就職者数							その他
				教員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	その他法人等	計	
特別支援教育特別専攻科		4		4						4	

「国費」… 文部科学省国費外国人留学生

「私費」… 私費外国人留学生 ※外国政府（マレーシア政府派遣など）の奨学金を受給する者及びJASSOの留学生対象奨学金、民間の奨学金を受給する者を含む。

国・地域別外国人留学生／International Students by Countries and Region

2025年5月1日現在（人）

区分		学部学生		大学院学生				研究生				科目等 履修生		特別聴講学生				特別研究 学生		計		合計
				修士課程		博士課程		学部		大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院					
地域・国名		国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費		
アジア (14か国 1地域)	中国		7		77		61		22										167	167		
	マレーシア		9	1	2														1	11	12	
	モンゴル		3		1	2	8		1								4	2	17	19		
	インドネシア	1		1		1			1					4					7	1	8	
	ベトナム		7	1	10	1	2												2	19	21	
	台湾		1												3		2			6	6	
	タイ		1	1	2	2	5												3	8	11	
	韓国		4												2					6	6	
	カンボジア	1			2	1													2	2	4	
	フィリピン		1		1														1	1	2	
	バングラデシュ		1		3	6	3	1												6	8	14
	ラオス				1	1													1	1	2	
	パキスタン				1					1									1	1	2	
	インド													1					1		1	
ミャンマー		1																	1	1		
小計		2	35	10	101	10	77		25				5	5		2		4	27	249	276	
アフリカ (2か国)	エジプト						2													2	2	
	ジンバブエ				1														1		1	
	小計				1		2												1	2	3	
中近東 (3か国)	イラン		1				1													2	2	
	サウジアラビア						1													1	1	
	レバノン																1			1	1	
	小計		1				2										1			4	4	
中南米 (1か国)	メキシコ												1						1		1	
	小計												1						1		1	
ヨーロッパ (5か国)	アゼルバイジャン																				2	2
	ハンガリー				1															1	1	
	ウクライナ		1																		1	1
	ポーランド													1	2					1	2	3
	カザフスタン						1													1		1
	小計		1		1		1							1	4					3	5	8
合計（25か国1地域）		2	37	12	101	11	81		25				7	9		2		5	32	260	292	
学部合計		39		大学院合計		205		研究生合計		25		交換留学生など合計				23						

学部・研究科等外国人留学生／International Students by Affiliation

区分	学部学生		大学院学生				研究生				科目等 履修生		特別聴講学生				特別研究 学生		計		合計
			修士課程		博士課程		学部		大学院		学部	大学院	学部		大学院		大学院				
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	私費		国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	
教育学													6	3					6	3	9
情報学		2	1	18				7					1	5		2			2	34	36
医学			1	7	3	27		1										4	35	39	
保健学		1	4	9	2	5		3									4	6	22	28	
理工学	2	34	5	63	6	49		14					1				1	13	162	175	
食健康科学				2															2	2	
パブリックヘルス学環			1	1															1	1	2
医理工レギュラトリーサイエンス学環				1																1	1
生体調節研究所																					
合計	2	37	12	101	11	81		25					7	9		2		5	32	260	292

学生の海外派遣数／Students Studying Abroad

(2024年4月～2025年3月派遣)

地域	留学・ 派遣先国名	共同教育 学部	教育学 研究科	情報学部	社会情報学研究科/ 情報学研究科	医学部 医学科	医学系 研究科	医学部 保健学科	保健学 研究科	理工学部	理工学府	特別支援教育 特別専攻科	合計
アジア (10か国) (1地域)	マレーシア	4		6		1		3		10			24
	ベトナム	2		2				3		11	1		19
	韓国	2						3	4				9
	ネパール			5				2		1			8
	インドネシア	1				4							5
	中国									5			5
	フィリピン							3					3
	タイ									1	1		2
	モンゴル								2				2
	シンガポール							1					1
オセアニア(1か国)	台湾										1		1
	オーストラリア	4		2		3		6		12	2		29
ヨーロッパ (6か国)	ポーランド			6		1							7
	フランス					1	1				3		5
	英国			1		1							2
	オーストリア										1		1
	スロベニア					1							1
	ドイツ										1		1
北米(1か国)	アメリカ	20						3	1		1	1	26
	合計	33		22		12	1	24	7	40	11	1	151

国際交流協定／Academic Exchange Agreements

2025年5月1日現在

地域・国	大学名	協定締結 (更新)日	協定 区分	本学の担当学部 (学部等間協定の場合)	備考
アジア					
中華人民共和国	西安交通大学	2021.4.12	大学間		
	廈門大学	2020.4.29	〃		
	沈阳化工大学	2020.1.29	〃		
	大連医科大学	2010.1.4	〃		
	大連理工大学	2007.1.30	〃		
	大連工業大学	2020.1.29	〃		
	中国科学院過程工程研究所	2019.2.27	〃		
	重慶交通大学	2009.3.25	〃		
	海南大学	2023.4.13	〃		
	内蒙古大学	2022.6.15	学部等間	生体調節研究所	
	中国鉱業大学	2022.3.9	〃	理工学部	
	西南交通大学	2009.7.1	〃	理工学部	
	河北工業大学	2022.2.22	〃	理工学部	
	揚州大学	2017.5.15	〃	理工学部	
	厦門理工学院	2020.8.31	〃	理工学部	
	湖南大学	2022.8.18	〃	生体調節研究所	
	中日友好病院	2016.1.21	〃	医学部附属病院	
	首都医科大学	2022.10.12	〃	生体調節研究所	
	江蘇科技大学	2022.3.9	〃	理工学部 理工学部	
	中国科学院	2022.7.15	〃	理工学部 理工学部	
	山東大学	2023.9.20	〃	理工学部 理工学部	
	北京協和医学院	2018.12.30	〃	保健学研究科	
	浙江省腫瘍医院	2023.5.8	〃	重粒子線医学研究センター	
	蘇州大学	2018.2.14	〃	理工学部	
	青島大学附属病院	2024.11.14	〃	医学部附属病院	
大韓民国	嶺南大学校	2020.2.1	大学間		
	釜山大学校	2023.4.14	〃		
	建国大学校	2019.10.9	〃		
	ソウル大学校	2008.10.27	〃		
	韓国原子力医学院	2020.4.20	学部等間	重粒子線医学研究センター	
	ソウル科学技術大学校産業大学院	2015.5.1	〃	理工学部	
	慶熙大学校工科大学	2021.7.5	〃	理工学部	
	忠南大学校	2015.8.11	〃	理工学部	
	仁済大学校	2019.3.28	〃	保健学研究科	
	大邱大学校	2016.3.29	〃	共同教育学部	
	ソウル大学校	2021.6.11	〃	重粒子線医学研究センター	
	KAIST情報技術統合研究所	2018.12.13	〃	重粒子線医学研究センター	
	大邱カトリック大学校	2020.3.27	〃	重粒子線医学研究センター	
台湾	延世大学校	2020.9.25	〃	重粒子線医学研究センター	
	高麗大学校	2023.6.15	〃	重粒子線医学研究センター	
	東海大学	2020.2.12	大学間		
	国立台北教育大学	2018.2.5	〃		
	国立虎尾科技大学	2023.6.13	〃		
	義守大学	2014.5.27 2025.4.7	学部等間 〃	理工学部 医学部	
	国立勤益科技大学	2015.4.30	〃	理工学部	
	世新大学	2023.7.13	〃	情報学部	
	国立陽明交通大学	2018.1.2	〃	理工学部 理工学部	
フィリピン	国立中央大学	2018.1.8	〃	理工学部 理工学部	
	フィリピン大学マニラ校	2019.1.8	大学間		
モンゴル	セブ工科大学	2020.2.3	学部等間	理工学部 理工学部	
	モンゴル国立医科学大学	2021.7.5	大学間		
インド	モンゴル生命科学大学	2023.8.2	〃		
	ヒンドスタン大学	2018.6.5	学部等間	理工学部	
	チトカラ大学	2018.6.6	〃	理工学部	
マレーシア	タタメモリアルセンター	2021.9.9	〃	重粒子線医学研究センター	
	マラ工科大学	2021.1.20	大学間		
	マレーシア国立大学	2020.5.28	学部等間	理工学部	
	バハン大学	2016.4.10	〃	理工学部	
	マレーシアマラッカ技術大学	2018.9.12	〃	理工学部	
	モナシュ大学マレーシア校	2023.2.14	〃	理工学部	
	マレーシア科学大学	2023.2.10	〃	理工学部	
ベトナム	ハノイ教育大学	2017.2.8	学部等間	共同教育学部	
	ハノイ工科大学	2008.1.23	〃	理工学部	
	FPT大学	2019.8.1	〃	理工学部	
	トュイロイ大学	2022.11.22	〃	理工学部	
	通信郵政学院	2022.7.1	〃	理工学部	
	ホンバン国際大学	2024.5.6	〃	保健学研究科	

地域・国	大学名	協定締結 (更新)日	協定 区分	本学の担当学部 (学部等間協定の場合)	備考
インドネシア	バジャジャラン大学	2015.4.20	大学間		
	インドネシア教育大学	2023.4.1	〃		
	バンドン工科大学	2024.3.22	学部等間	理工学部	
	ジャカルタ州立大学	2016.7.13	〃	理工学部	
	スマトラ工科大学	2023.8.26	〃	理工学部 理工学部	
	スリウィジャヤ大学	2019.12.26	〃	医学系研究科	
	イスラム サルタン アグング大学	2020.11.17	〃	保健学研究科	
シンガポール	南洋理工大学	2015.3.20	大学間		
バングラデシュ	ダッフォディル国際大学	2019.2.8	学部等間	理工学部 理工学部	工学部
	ダッフォディル国際大学	2019.2.8	〃	理工学部 理工学部	科学情報技術学部
	クルナ工科大学	2022.12.15	〃	理工学部	
	ノアカリ科学技術大学	2022.4.30	〃	理工学部	
パキスタン	イスラミア・バハールワルブル大学	2022.12.19	学部等間	理工学部	
タイ	チェンマイ大学	2017.10.30	大学間		
	泰日工業大学	2017.10.30	〃		
	キングモンクット工科大学トンブリ校	2023.4.20	〃		
	ランシット大学	2023.9.12	〃		
	ラジャマンガラ工科大学イサン校	2023.12.11	〃		
	キングモンクット工科大学ラートクラバン校	2008.12.12	学部等間	理工学部	
	マヒドン大学	2022.2.22	〃	理工学部	
	チュラロンコン大学	2022.8.8	〃	理工学部	
	カセサート大学	2022.1.26	〃	理工学部	
	ラジャマンガラ工科大学ランナー校	2020.12.20	〃	理工学部	
ヨーロッパ					
ハンガリー	カーロリ・ガースパール・カルビン派大学	2023.10.24	学部等間	情報学部	
スロベニア	リュブリャナ大学	2008.9.19	大学間		
ドイツ	ドイツ重イオン研究所ヘルムホルツセンター	2020.3.27	学部等間	重粒子線医学研究センター	
	ハイデルベルグ大学	2018.7.26	〃	重粒子線医学研究センター	
フランス	モンペリエ国立高等化学大学院	2017.1.20	学部等間	理工学部	
	高等科学技術学院	2023.4.24	〃	理工学部 理工学部	
	ESIEEパリ	2023.7.4	〃	理工学部	
イタリア	フィレンツェ大学	2023.5.9	大学間		
アゼルバイジャン	バクー国立大学	2019.10.30	大学間		
ポーランド	ヤギェウォ大学	2024.6.24	学部等間	情報学部	
	ワルシャワ大学	2024.5.8	〃	グローバルイニシアチブセンター	
チェコ	オストラバ工科大学	2024.2.29	大学間		
オーストリア	ウィーン医科大学	2014.4.14	学部等間	重粒子線医学研究センター	
クロアチア	ザグレブ大学	2023.6.2	学部等間	情報学部	
リトアニア	ヴィータウタス・マグヌス大学	2018.10.22	大学間		
	ヴィリニウス大学	2019.4.3	学部等間	情報学部	
英国	キール大学	2023.10.18	大学間		
ルーマニア	クルージュナボカ工科大学	2023.10.30	学部等間	理工学部	
北米					
アメリカ合衆国	サンディエゴ州立大学	2023.8.31	大学間		
	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校	2014.8.29	〃		
	ピュージェット・サウンド大学	2023.4.11	〃		
	ハワイ大学マノア校	2023.7.10	〃		
	マサチューセッツ総合病院	2018.6.28	学部等間	重粒子線医学研究センター	
	d/b/aメイヨークリニック	2023.12.7	〃	重粒子線医学研究センター	
	ミズーリ州立大学	2015.2.19	〃	共同教育学部	
	モアヘッド州立大学	2015.12.16	〃	共同教育学部	
	フォートルイス大学	2018.4.26	〃	共同教育学部	
	アダムス州立大学	2019.2.18	〃	共同教育学部	
	ワシントン大学	2002.4.2	〃	医学部	
	ブレイリービューA&M大学	2017.7.28	〃	重粒子線医学研究センター	
中南米					
ニカラグア	ニカラグア国立自治大学	2017.1.10	大学間		
コロンビア	サバナ大学	2004.4.20	学部等間	医学系研究科	
オセアニア					
オーストラリア	ウーロンゴン大学	2014.7.15	大学間		
	ディーキン大学	2023.3.3	〃		
	クイーンズランド大学	2023.2.27	学部等間	未来先端研究機構	
ニュージーランド	オタゴ大学	2017.11.1	学部等間	保健学研究科	
中近東					
アラブ首長国連邦	M42	2025.4.22	学部等間	重粒子線医学研究センター	

共同教育学部附属学校園／Affiliated Schools

2025年5月1日現在

区 分		総定員	現 員						
			1年生／ 3歳児	2年生／ 4歳児	3年生／ 5歳児	4年生	5年生	6年生	計
共同教育学部	附 属 幼 稚 園	120	40	41	40				121
	附 属 小 学 校	630	102	101	99	101	99	101	603
	附 属 中 学 校	420	136	136	136				408
	附属特別 支援学校	小学部	18	3	3	3	3	3	18
		中学部	18	6	6	6			18
		高等部	24	8	8	6			22
計		1,230	295	295	290	104	102	104	1,190

医学部附属病院診療科及び患者数／Patients by Departments in University Hospital

診療科		区 分	2024年度患者数（人）	
			入院患者	外来患者
内 科 系	循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器・肝臓内科、内分泌糖尿病内科、腎臓・リウマチ内科、血液内科、腫瘍内科、脳神経内科、総合診療科		46,499	108,767
外 科 系	循環器外科、呼吸器外科、消化管外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、泌尿器科、歯科口腔・顎顔面外科、形成外科、救急科		67,121	91,507
感覚器・運動機能系	整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科		41,313	120,082
脳神経・精神・麻酔系	精神科神経科、麻酔・集中治療科、脳神経外科		23,818	26,128
小 児・女 性 系	小児科、小児外科、産科婦人科		21,529	36,922
放 射 線 系	放射線治療科、放射線診断核医学科		6,247	31,699
計			206,527	415,105

※病床数：731床（2025年4月1日現在）

Aコース「一般の方」対象

講 座 名	期間及び時間数	募集人数
企業・産業分析スキル特論（金融ビジネスの基礎から実際まで）	9日間（22.5時間）	28人
AI・デジタルリテラシー	3日間（4.5時間）	20人
社会起業家特論（社会起業家特論Ⅰ・Ⅱ）	9日間（22.5時間）	26人

Bコース「専門技術者等」対象

講 座 名	期間及び時間数	募集人数
高校生サイエンスインストラクター育成プログラム①②	2日間（12.0時間）	各20人

Aコース「一般の方」対象

講 座 名	期間及び時間数	募集人数
国際協力、はじめの一步！	1日間（3.5時間）	20人
アンケートの作り方入門	1日間（1.5時間）	人数制限なし
2025年の健康保険——その歴史と現在、そして未来へ向けて	1日間（2.0時間）	20人
第32回アレルギー週間事業 アレルギーマーチの講演会・相談会	1日間（2.5時間）	人数制限なし

Bコース「専門技術者等」対象

講 座 名	期間及び時間数	募集人数
チョコレートのおいしさを科学する —カカオバターの結晶を美味しくする実験—	1日間（5.0時間）	20人

講 座 名	配信期間	募集人数
手話関連講座（オンデマンド）	4月1日（火）～3月16日（月）	人数制限なし

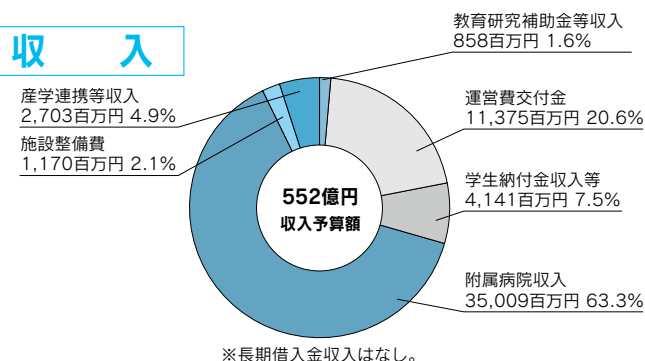
No	事業名	学部等	学科等	担当	事業内容
1	'24 summer オープンラボ student programme	生体調節研究所		佐々木伸雄	本事業は生体調節研究所主催の高校生を対象としたオープンラボである。群馬県立前橋女子高等学校（SSH指定校）の生徒を対象に夏休み期間中を利用し、研究室を開放して講義に加え実際に実験実習を体験してもらう計画である。少人数の受入れ体制により、研究の現場の深層部まで体験していただき、研究職という職業の魅力を伝える。
2	群馬県の自然 環境と特産を 生かした健康 増進講習	医学系研究科 医学部附属病院	神経精神医学 分野 集中治療部 栄養管理室	齋藤 繁 戸部 賢 下谷 幸	群馬大学は「食健康科学」の拠点となるべく準備を進めている。こうした中、健康管理に関する最新知識が集積している大学附属病院のスタッフが県民に対して栄養管理と運動の適切な管理が健康増進のために必須であることを解説することは大きな社会貢献になると考えられる。令和5年度は「医食同源・薬食同源」という切り口で類似の活動を行ったが、令和6年度は地域の食材と地形的特性を活かした運動の合理的な組み合わせが、ストレスの多い社会において「癒し」効果を持ち、健全な心身を維持するために必須であることを新聞紙面や講習会等を通じて啓蒙する。
3	ゲノム医療の 地域社会実装 に資するゲノ ム科学教育の ための教材開 発	医学系研究科 共同教育学部	附属教育研究 支援センター 理科教育講座	大日方 英 佐藤 綾	本事業では、ゲノム科学教育のための実習教材の開発を島津理化社とともにを行い、出前授業や市民公開講座、遺伝子診療部受診患者への説明等に活用することで、ゲノム医療の地域社会への普及に貢献する。令和5年度から支援を受けてスタートした本事業では、2つの試作品の製作と附属中学校および本学教養教育科目での授業実践における試用へと至り、参加した学生の評価が非常に高かった。令和6年度は更なる授業実践を通して、製品化に向けた取り組みを継続する。
4	救急救命士向 けの病院前周 産期救急対応 講習の開催	医学系研究科 医学部附属病院	産科婦人科学 分野 救急医学分野 周産母子セン ター 医学開発教育 学 救命救急セン ター	岩瀬 明 大島 清宏 澤田 悠輔 日下大輔 井上 貴博 田中亜由子 市川 優美 荒巻 裕斗 河野 慧	本事業は群馬県内の母体・新生児救命体制の充実に向け、救急救命士に病院前周産期救急対応・新生児蘇生法を取得してもらうことを目的とする。県内の救急救命士、救急隊員、消防吏員を対象に病院前周産期救急および病院前新生児蘇生法講習会を令和4年に策定し、2年連続で開催している。より多くの対象者に提供し、群馬県の周産期医療の更なる充実を目指す。
5	Hair For Children 髪を失った子 供たちへ届け るやさしいヘ アウィッグプ ロジェクト	医学系研究科 医学部	小児外科分野 医学科	大竹 紗弥香 伊谷野真莉愛	本プロジェクトは、全国から「ヘアドネーション（31cm以上の髪の寄付）」を募り、疾患により髪を失った子供たちに高品質なヘアウィッグを提供することを目的とする。キャンパス内に髪の毛の保管部屋を確保し、寄付された髪を保管、有志による仕分け作業を行い、株式会社アートネイチャーと連携してウィッグを作成し、完成したウィッグは、小児病棟に入退院している子供たちに直接届け、笑顔と自信を取り戻す支援を行う。
6	群馬県小児内 分泌代謝疾患 対策推進会議 の持続的な発 展（小児内分 泌代謝疾患の 啓蒙と病診連 携の推進によ る子どもの健 康増進）	医学系研究科 医学部附属病院 医学部	小児科学分野 小児科 看護部 保健学科	大津 義晃 滝沢 琢己 大澤 好充 山口 将邦 和田 綾 島田 正晴 萩沼 明 高橋 真実 石北茄也乃 齋藤 詩織 宮下 夢生 増田 音々	令和4年度の本事業において群馬県小児内分泌代謝疾患対策推進会議を設立し、①小児内分泌代謝疾患の診療連携会議、②ぐんま子ども・子育てコロキウム（市民公開講座）、③群馬小児糖尿病の会（患者会）の医療支援、④新生児オプショナルスクリーニングの体制検討を実施した。これらの持続的な発展のため、令和6年度は申請する。①は、県内で小児内分泌代謝疾患を診療する医師や医師会と繋がり、感染症蔓延下や災害時における診療機能維持体制の構築と維持を行う。②は、子育てに関与する多職種・多機関と連携を図りながら市民公開講座を実施する。令和6年度は看護部や看護学生も参画することにする。③は、医療支援だけでなく、糖尿病協会や県教育委員会とともに、一般市民や学校教員への啓蒙を行う。④は、令和6年度から群馬県のスクリーニング体制が大きく変化した、いずれも希少疾患であるため、一般市民の理解は乏しい。県行政とともにスクリーニングの普及を進める。
7	群大生が受け 継ぐ天明3年 の浅間山大噴 火と復興支援	保健学研究科	看護学	内田 陽子 辻村 弘美	群馬県は災害が少ないという意識がある。しかし、群馬県内には5つの活火山を有する。1783年(天明3年)の浅間山大噴火では、泥流も発生、飢饉も関連し死者約2万とされる。被害の大部分は群馬県で吾妻郡嬬恋村鎌原地区は村全体が土石なだれて埋まる。生存者は高台の観音堂に登った93名であった。その後、身分も超えて新しい家族形成、土地平等区分等を行った。これは世界にも類を見ない復興であり、現在まで老人会が堂で語り部を担っている。しかし、コロナ禍で語りも少なく、受け継ぐ若者がいない。そこで、群大学生が次世代の語り部として立ちあがることとした。

No	事業名	学部等	学科等	担当	事業内容
8	ゲノム医療に向けた群馬県遺伝子診療体制の構築（群馬県ゲノム医療対策会議の設立と活用）	保健学研究科 医学系研究科	看護学 産科婦人科学分野 母子看護学 分子細胞生物学分野	小澤 厚志 日下大輔 篠崎 博光 秦 健一郎	遺伝子の病的バリエーションを原因とする疾病を対象とするゲノム医療は一般医療になりつつある。群馬県内でゲノム医療に対応できる施設や、専門職人材は限られており、県内ゲノム医療ネットワーク構築は急務だった。令和2年度に本事業が採択され、令和4年7月に群馬大学病院内に「群馬県ゲノム医療対策会議」が設置された。令和5年度に県内のゲノム医療従事者間で会合が持たれ、令和6年にはさらに群馬県健康福祉部、県医師会からのメンバーも加わりより強固な組織化が行われた。令和6年度以降の運営として定期会議の開催と、県民のゲノムリテラシー向上のための講演会、ホームページの充実化を推進する。
9	保健学学生・修了生主体による地域住民と協働した健康づくりの活動拠点形成	保健学研究科	看護学 生体情報検査科学 リハビリテーション学 (理学療法学)	佐藤 由美 牛久保美津子 横山 知行 山上 徹也 石川 麻衣 田中 浩二 十枝はるか 松井 理恵 堀田かおり 柏瀬 敦 鬼塚 陽子 土岐 明子 加藤 大悟	保健学科学生、保健学研究科大学院生が主体となって、前橋市内の自治会単位で住民との協働により、子どもや高齢者の健康づくりとQOL向上のための活動拠点を形成する。保健学科で取り組んできた学生保健サポーターの養成と学生によるボランティア活動を基盤に、従来の地域活動への参加型から発展し、学生と住民が協働して健康づくりの活動拠点をつくる。この活動に保健医療専門職である卒業生・修了生の参加を促し、質の高い活動を保証する。
10	群馬県軟式野球選手を対象にした成長期スポーツ障害検診 群馬県高校野球投手メディカルチェック	医学系研究科 保健学研究科 医学部附属病院	整形外科科学分野 リハビリテーション学 (理学療法学) 整形外科	筑田 博隆 田鹿 毅 設楽 仁	本事業は群馬県成長期軟式野球選手（小学生、中学生）高校野球投手を対象とし、成長期スポーツ障害（野球肩・肘、腰椎分離症、オスグッドシュラッター病）の有無並びに、全身のコンディショニングを調査し、個々の体の状態に応じたトレーニング指導を行う。障害を認めた（疑われた）選手に対しては医療機関の受診指導（二次検診の施行）を行う。また野球指導者、保護者に対し検診結果をフィードバックし、スポーツ障害の予防について啓発する。
11	北関東精神保健看護研究会	保健学研究科	看護学	近藤 浩子 八木原ひなた	北関東（主に群馬県・栃木県）を中心とした北関東エリアにおいて、精神保健看護に従事する専門職（精神科病院や訪問看護ステーションの看護師等）が、互いの実践や教育等に関して、情報交換と研究活動を行うための研究会を年2回程度、開催する。
12	こども科学体験教室ハイブリッド～チョコレート科学する～	理工学部	分子科学部門 知能機械創製部門	奥津 哲夫 鈴木 良祐	幼児や小学生およびその保護者に対して「チョコレートのテンパリング」について親子で学びながら楽しめる科学体験を提供する。身近な話題となるお菓子のチョコレートをを用いて温度の変化で組織がどう変わるかを学び、物理学や化学が関係することを実感させ、理科（科学）の重要性を認識させる。対象となる子供たちとその保護者に考えを根付かせることで、将来の理工系人材の充実に寄与することを目指す。
13	高校生のための最先端生命科学＆重粒子線医学セミナー	生体調節研究所 重粒子線医学推進機構		佐々木伸雄 大野 達也	本事業は生体調節研究所と重粒子線医学研究センターの連携により基礎及び臨床医学の最先端を幅広く体験できるセミナーである。群馬県内のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校などから参加希望者を本学に招き①研究者の講義②実験や研究施設の見学③若手研究者による進路選択の助言等を行う。これら一連の体験学習により、高校生へ生命科学研究の興味を喚起するとともに、生命科学分野を具体的に将来の進路選択候補として捉えてもらうための貴重な機会を提供する。
14	ウクライナ DAY in 群馬大学	総合情報メディアセンター グローバルイニシアチブセンター		西村 淑子 飯島 睦美	群馬大学で受け入れているウクライナ出身の学生・研究者を通じて、ウクライナの現状を知り、支援に繋げるイベントとして、外部講師による講演会、在日避難民によるトークイベント、ウクライナ文化を理解するためのワークショップ及び「発行されなかった卒業証書展」を開催する。本事業を通じて、ウクライナへの理解を深め、平和の重要性を考える機会を提供するとともに、群馬大学基金など、ウクライナ支援に係る事業紹介をする。

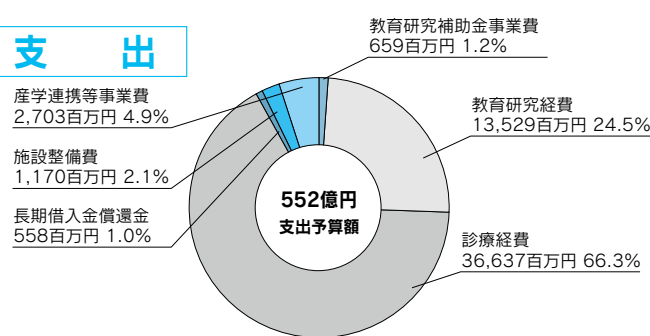
2025年度収入・支出予算額

Revenue Expenditure Budget 2025

収入



支出



研究費等獲得・受入状況

Research Grants

2025年5月1日現在

科学研究費助成事業 (2025年度) / Grants-in-Aid for Scientific Research

研究種目	件数	金額 (千円)	研究種目	件数	金額 (千円)
学術変革領域研究 (A)	7	53,600	挑戦的研究 (萌芽)	9	16,800
学術変革領域研究 (B)	1	19,100	研究活動スタート支援	3	2,400
基盤研究 (A)	4	30,500	国際共同研究加速基金 (海外連携研究)	2	11,100
基盤研究 (B)	45	174,500	特別研究員奨励費	9	7,500
基盤研究 (C)	223	219,550	奨励研究	1	480
若手研究	66	73,800	ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI	2	970
挑戦的研究 (開拓)	3	11,500	計	375	621,800

厚生労働科学研究費補助金等 (2024年度) / Health, Labor and Welfare Sciences Research Grants, etc.

研究事業	件数	金額 (千円)	研究事業	件数	金額 (千円)
がん対策推進総合研究事業	3	1,700	地域医療基盤開発推進研究事業	1	1,700
難治性疾患政策研究事業	12	3,276	食品の安全確保推進研究事業	1	5,337
エイズ対策政策研究事業	1	10,000	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業	2	700※
肝炎等克服政策研究事業	2	1,000	総計	22	23,713

※子ども家庭科学研究費

補助金等 (2024年度) / Subsidies

補助金区分	件数	金額 (千円)	補助金区分	件数	金額 (千円)
大学改革推進等補助金	1	250,000	群馬県救急医療施設運営費等補助金	1	675
研究拠点形成費補助金	3	53,074	県地域周産期母子医療センター運営補助金	1	36,412
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金	1	69,815	群馬県災害医療対策事業費補助金	1	9
授業料等減免費交付金	1	190,595	医療機関食材料費高騰対策支援給付金	1	2,339
研究開発施設共用等促進費補助金	1	1,558	群馬県企業局助成金	1	99,970
人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金	1	135,568	医療研究開発推進事業費補助金	1	18,928
感染症予防事業費等国庫負担 (補助) 金	2	59,670	助成事業補助金	1	33,500
厚生労働省医療施設運営費等補助金	1	1,442	官民による若手研究者発掘支援事業費助成金	1	6,669
中小企業経営支援等対策費補助金	1	7,499	大学・高専成長分野転換支援基金助成金	1	67,880
群馬県感染症指定医療機関運営事業費補助金	1	12,588	次世代研究者挑戦的研究プログラム助成金	1	116,000
県地域医療介護総合確保基金事業費補助金	5	18,448	マイナ保険証利用促進のための助成金	1	1,025
			合計	29	1,183,664

寄附金 (2024年度・基金以外) / Donations

区分	件数	金額 (千円)
寄附金	893	652,474
(内訳)		
荒牧キャンパス	44	42,063
昭和キャンパス	707	459,780
桐生キャンパス	142	150,631

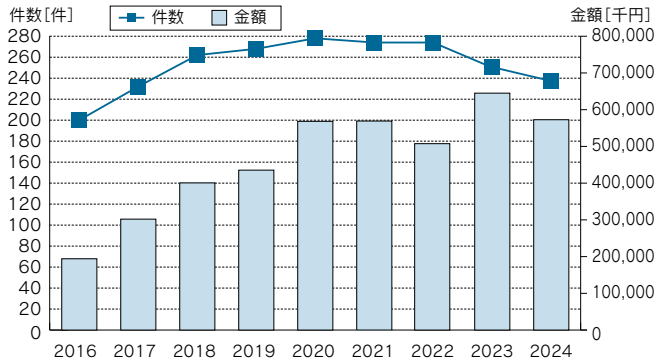
寄附金 (2024年度・基金) / Gunma University Fund

事業名	件数	金額 (千円)
創基150周年記念事業	47	9,420
学生の修学支援に資する事業	119	9,007
大学運営全般に係る事業	134	6,380
学生等への研究等支援に資する事業	38	1,757
重粒子線治療の普及・発展に資する事業	21	934
ウクライナ学生・研究者受入支援事業	10	443
計	369	27,941

共同研究（2024年度）／ Joint Research

区 分	件 数	金 額（千円）
共 同 研 究	235	571,936

民間等との共同研究受入状況
Joint Research with the Private

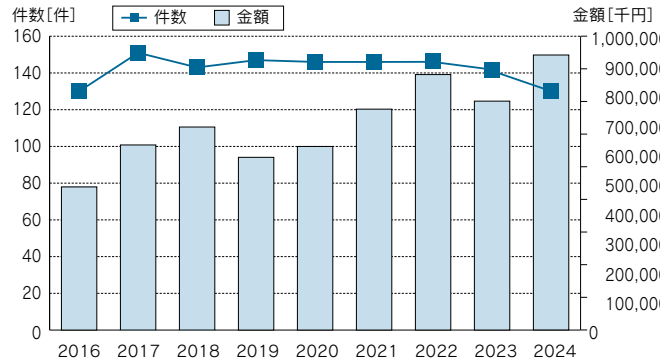


受託研究（2024年度）／ Commissioned Research

区 分	件 数	金 額（千円）
受 託 研 究	128	935,795

※受託事業（治験、学術指導等）は除く

民間等との受託研究受入状況
Commissioned Research with the Private



主な競争的研究費

Principal Competitive Research Fund

事業名	名称	主たる 研究担当部署	採択年度	内容
NEDO ムーンショット型 研究開発事業	ムーンショット型研究開発事業 ／地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現／生分解開始スイッチ機能を有する海洋分解性プラスチックの研究開発	理工学府	2020年度～ 2027年度	本研究開発プロジェクトでは、海洋プラスチックゴミに関わる課題を克服し、ムーンショット目標4「Clean Earth」を実現する「生分解開始スイッチ機能を有する海洋分解性プラスチック」の開発を目指す。
JST ムーンショット型 研究開発事業	ウイルスー人体相互作用ネットワークの理解と制御（季節性および輸入呼吸器疾患原因のウイルスモデル作製とネットワーク解析）	医学系研究科	2020年度～ 2026年度	コロナウイルスは現在拡大しているSARSコロナウイルス-2以外にも、ヒトに感染するコロナウイルスがある。コロナウイルスは一般に呼吸器を標的として、風邪様の症状を引き起こすが、実は詳しい解析がなされていない。私たちは、コロナウイルス以外にもRSウイルスに着目して研究を開始している。 つまり、呼吸器に感染するウイルスの予防法や治療法の確立を目的にウイルスの遺伝子操作を用いて増殖機構と病原性の解明を行っている。 本事業では異分野の研究者と連携して研究を行い、呼吸器感染症と相互作用ネットワークモデルの構築に挑戦する。
AMED 次世代治療・診断 実現のための創薬 基盤技術開発事業	腸内マイクロバイオーム制御による次世代創薬技術の開発／課題5：ヒューマン粘膜エコシステムを標的とした腸内細菌創薬プラットフォーム開発研究	生体調節研究所	2021年度～ 2026年度	ヒト腸内環境に存在する微生物（以後、腸内細菌とする）の宿主へ対する影響を明らかにする。我々の腸管内には約1000種類、100兆個におよぶ細菌が常在しているが、その殆どが未培養性細菌であることから、未だにそれらの大部分の機能は不明である。そこで本研究では、腸内細菌と宿主の体内を隔てる粘膜バリアとして最前線で機能する腸管上皮細胞に注目し、その粘膜バリアと腸内細菌の間に存在する相互作用の分子基盤の実体が明らかにすることを目的とする。
JST 国際科学技術共同 研究推進事業	地球規模課題対応国際科学技術 協力プログラム（SATREPS）	理工学府	2025年度～ 2030年度	アジア諸国では、極端気象に起因する災害犠牲者が急増する一方、気象観測に基づく避難誘導が脆弱である。これを踏まえ、ベトナムにおいて、高密度気象レーダーの観測情報を高速かつ高精度な土砂災害シミュレータで処理することで表層崩壊と土石流の高度な災害予測を実現し、地域解像度の高い、地域住民一人ひとりのニーズに合った避難行動を促す実効性のある早期警戒システムを社会に実装することが本研究の目的である。また、流域全体の総合的リスク評価に基づいて、長期的な防災戦略策定の適否を判断する基礎資料を得る手段を開発する。
AMED 脳神経科学統合ブ ログラム	脳統合研究を推進するウイルス ベクター技術の整備と高度化	医学系研究科	2024年度～ 2029年度	日進月歩のウイルスベクター技術の基盤整備を行い、世界をリードする革新的なウイルスベクター技術を開発し、ウイルスベクターに関する世界トップレベルの開発拠点の構築を目的とする。遺伝子治療ベクターとして臨床応用することを視野に、霊長類で使うことを想定して開発を進める。

[illegible]

※ () 内の数字は借用面積で外数。

学部等所在地分布図

Campus Location



符号	学部等の名称		所在地	電話	符号	学部等の名称		所在地	電話				
A	事務局	総務部	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7005 (総務係)	A	総合情報メディアセンター 中央図書館	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7185					
		財務部		(027)220-7044 (総務係)		情報基盤部門		(027)220-7391					
		学務部		(027)220-7125 (総務係)		医学図書館		(027)220-7882					
		研究推進部		(027)220-7512 (総括係)		情報基盤部門昭和分室		(027)220-8105					
		施設運営部		(027)220-7088 (総務・契約係)	B	理工学図書館	〒376-8516 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1079					
	荒牧地区環境美化室 共同教育学部 〃附属教育実践センター 〃附属学校部 〃附属幼稚園 〃附属小学校 〃附属中学校 〃附属特別支援学校	(027)220-7017	情報基盤部門桐生分室	(0277)30-1161									
		大学院教育学研究科	(027)220-7204 (総務係)	大学教育・学生支援機構 大学教育センター 〃 グローバルイニシアチブセンター 〃 学生支援センター アドミッションセンター 〃 健康支援総合センター 〃 教育改革推進室		〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)						
		情報学部	(027)220-7403 (総務係)					研究・産学連携推進機構 研究・産学連携戦略本部					
	大学院情報学研究科	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)		〃 〃 研究U R A 室								
	医学部				B			〃 〃 産学連携ワンストップサービスオフィス 〃 高度研究推進・支援部門 高度研究戦略室 〃 〃 機器分析センター 〃 高度人材育成部門 高度人材育成センター	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)			
	大学院医学系研究科			A		〃 〃 研究支援人材育成コンソーシアム室	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2				(027)220-7111 (代)		
	〃附属生物資源センター											B E	大学院理工学府附属元素科学 国際教育研究センター
	〃附属薬剤耐性菌実験施設	大学院食健康科学研究科	昭和キャンパス 〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22										
	〃附属教育研究支援センター				〃 〃 重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター 〃 未来先端研究機構			〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7443				
	大学院保健学研究科			A		次世代モビリティ社会実装研究センター 多職種連携教育研究研修センター 多職種人材育成のための医療安全センター 重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22			(027)220-7111 (代)			
	〃附属研究・教育センター										B	数理データ科学教育研究センター 食健康科学教育研究センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2
	〃附属高度保健学人材開発センター	A B	医理エリギュラトリーサイエンス学環										
	医学部附属病院				A			ダイバーシティ推進センター	〒377-1412 吾妻郡長野原町北軽井沢 字南木山大楢2032-242				
	理工学部 大学院理工学府			太田キャンパス 〒373-0057 太田市本町29-1		(0276)50-2231 (代)	桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1			(0277)30-1111 (代)			
											大学院工学部	荒牧キャンパス 〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)
大学院食健康科学研究科		桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(027)220-7111 (代)										
					バブリックヘルス学環			〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15	(027)220-7111 (代)				
	医理エリギュラトリーサイエンス学環			〒371-8514 前橋市昭和町3-39-22		(027)220-7111 (代)	(027)220-7111 (代)						
										生体調節研究所	〒371-8512 前橋市昭和町3-39-15	(027)220-7111 (代)	(027)220-7111 (代)
〃附属拠点研究支援センター		〃附属生体情報ゲノム リソースセンター	〃附属生活習慣病解析センター										
					〃附属生体情報ゲノム リソースセンター			〃附属生活習慣病解析センター					
	〃附属生活習慣病解析センター												
				〃附属生活習慣病解析センター									

荒牧地区

Aramaki Campus

【所在地：前橋市荒牧町4-2】



- 1 1号館（学生センター、大学教育・学生支援機構）
- 2 2号館（教養大講堂）
- 3 3号館（数理データ科学教育研究センター、
ダイバーシティ推進センター）
- 4 4号館（共同教育学部）
- 5 5号館（共同教育学部）
- 6 6号館（共同教育学部）
- 7 7号館（共同教育学部、附属教育実践センター、
食健康科学教育研究センター）
- 8 8号館（共同教育学部、情報学部）
- 9 9号館（共同教育学部）
- 10 10号館（情報学部）
- 11 総合情報メディアセンター中央図書館
- 12 職員宿舎
- 13 基幹棟（中会議室他）
- 14 健康支援総合センター
- 15 荒牧地区環境美化室
- 16 本部管理棟
- 17 守衛所
- 18 第一・第二体育館、武道館
- 19 大学会館「アザレア」
（ミューズホール、グローバルイニシアチブセンター、アトリウムラウンジ）
- 20 キャリアサポート室
- 21 体育管理施設
- 22 課外活動施設（共用施設棟）
- 23 合宿研修施設
- 24 憩いの広場
- 25 中央モール
- 26 遊歩道
- 27 11号館（次世代モビリティ社会実装研究センター）

昭和地区

Showa Campus

【所在地①：前橋市昭和町3-39-15（医学部附属病院・生体調節研究所ほか）】

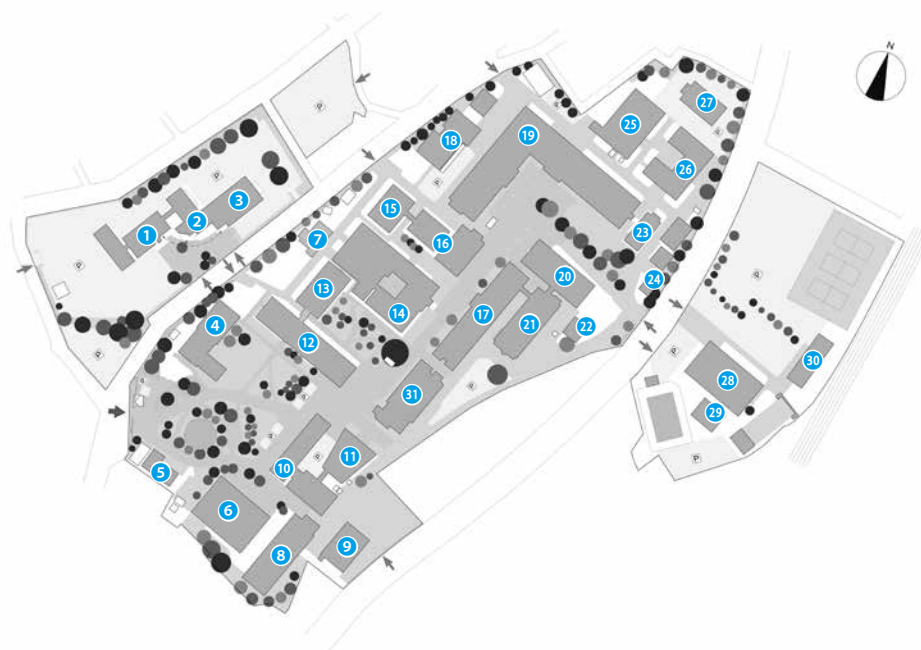
【所在地②：前橋市昭和町3-39-22（医学部ほか）】



- | | | |
|----------------------|----------------------|-------------------------|
| 1 保健学科西棟・中央棟 | 14 医学部講義棟 | 27 プロジェクト棟（1F：石井ホール） |
| 2 保健学科新棟・南棟 | 15 刀城会館（記念会館） | 28 中央診療棟 |
| 3 学生食堂 | 16 総合情報メディアセンター医学図書館 | 29 立体駐車場南 |
| 4 中央機械室 | 17 共用施設棟 | 30 立体駐車場北 |
| 5 生体調節研究所 | 18 臨床講堂 | 31 重粒子線医学センター（重粒子線照射施設） |
| 6 R I 研究棟 | 19 特別診療棟 | 32 保育所（ゆめのご保育園） |
| 7 特高受電室 | 20 診療棟 1 | 33 アメニティモール |
| 8 生体情報ゲノムリソースセンター | 21 診療棟 2 | 34 東棟 |
| 9 生物資源センター（1） | 22 診療棟 3 | 35 非常用発電機室 |
| 10 生物資源センター（2） | 23 北病棟 | 36 しらぎく棟 |
| 11 臨床研究棟 A（1F：黒梅ホール） | 24 南病棟 | 37 多機能診療棟 |
| 12 臨床研究棟 B | 25 外来診療棟 | |
| 13 基礎医学棟 | 26 体育館・課外活動施設 | |

桐生地区 Kiryu Campus

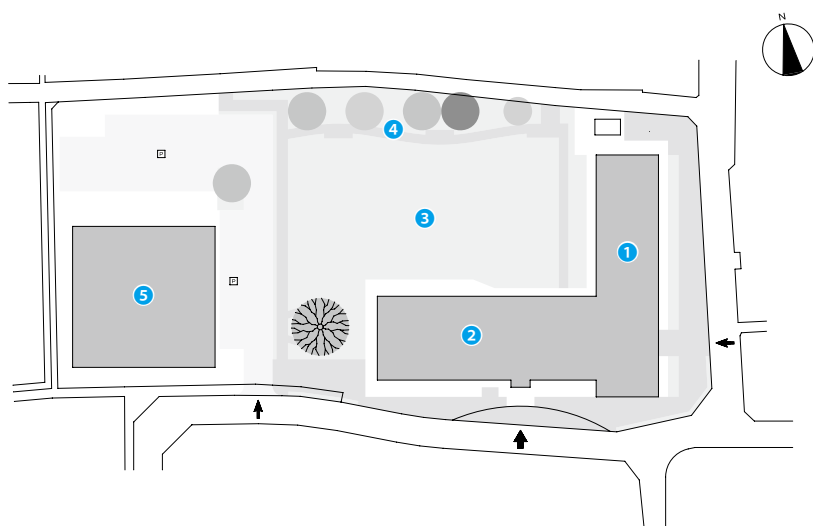
【所在地：桐生市天神町1-5-1】



- ① A 棟（研究・産学連携推進機構）
- ② B 棟（研究・産学連携推進機構）
- ③ C 棟（研究・産学連携推進機構）
- ④ 同窓記念会館
- ⑤ 車庫
- ⑥ 工学部会館
- ⑦ 環境保全支援センター
- ⑧ 7号館
- ⑨ 実験棟
- ⑩ 1号館
- ⑪ 講義棟
- ⑫ 4号館
- ⑬ 5号館
- ⑭ 総合情報メディアセンター理工学図書館
- ⑮ プロジェクト棟
- ⑯ 6号館
- ⑰ 2号館
- ⑱ 基幹棟
- ⑲ 3号館
- ⑳ 8号館N棟
- ㉑ 8号館S棟
- ㉒ 危険薬品庫
- ㉓ 特別実験棟
- ㉔ RI実験施設 1、2
- ㉕ 原動機棟
- ㉖ 研究推進支援センター
- ㉗ 医理工共用研究棟
- ㉘ 体育館
- ㉙ 合宿所
- ㉚ 課外活動施設
- ㉛ 総合研究棟、機器分析センター

太田地区 Ota Campus

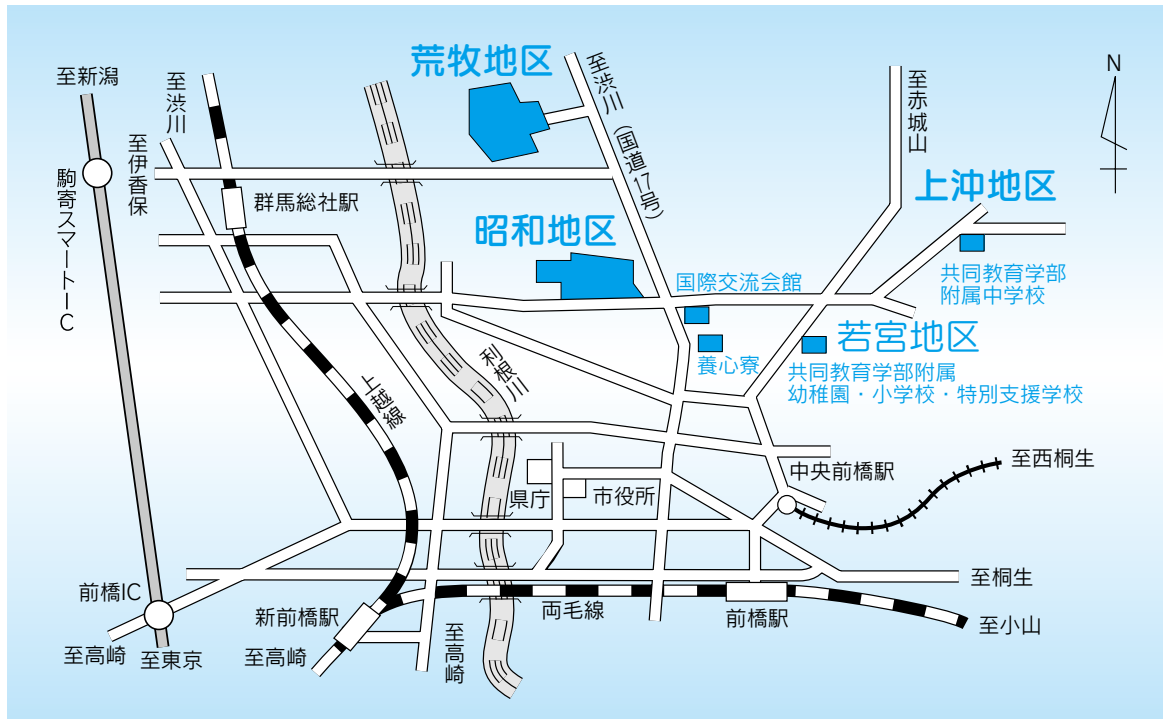
【所在地：太田市本町29-1】



- ① 大学院研究棟
- ② 産学研究棟
- ③ 交流広場
- ④ 散策路
- ⑤ ものづくりイノベーションセンター

荒牧、昭和、若宮、上沖地区

Aramaki, Showa, Wakamiya, Kamioki Campus



荒牧地区

■鉄道

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ8 Km
JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ8.4Km

■バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）
・群馬大学荒牧経由渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約28分）
・渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行「前橋自動車教習所前」下車（所要時間約25分＋徒歩10分）
JR新前橋駅東口乗り場（関越交通バス）
・群大病院・群馬大学荒牧経由総合スポーツセンター行「商工連会館前」下車（所要時間約32分＋徒歩5分）

昭和地区

■鉄道

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km
JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ5.1Km

■バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）
・全線「群大病院入口」下車（所要時間約13分＋徒歩6分）
・群大病院行・群大病院経由群馬大学荒牧行、群大病院・南橋団地経由群馬大学荒牧行、群大病院経由南橋団地行「群大病院」下車（所要時間約15分）

若宮地区

■鉄道

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ2 Km

■バス

JR前橋駅北口3番乗り場
・総合スポーツセンター方面行、湯の道利久行、群馬総社駅行「附属小前」下車（所要時間約8分）（日本中央バス）
JR前橋駅北口6番乗り場
・富士見温泉行「附属小前」下車（所要時間約9分）（関越交通バス・日本中央バス）
・嶺公園行、小坂子行、荻窪公園行「附属小前」下車（所要時間約6分）（永井バス）

上沖地区

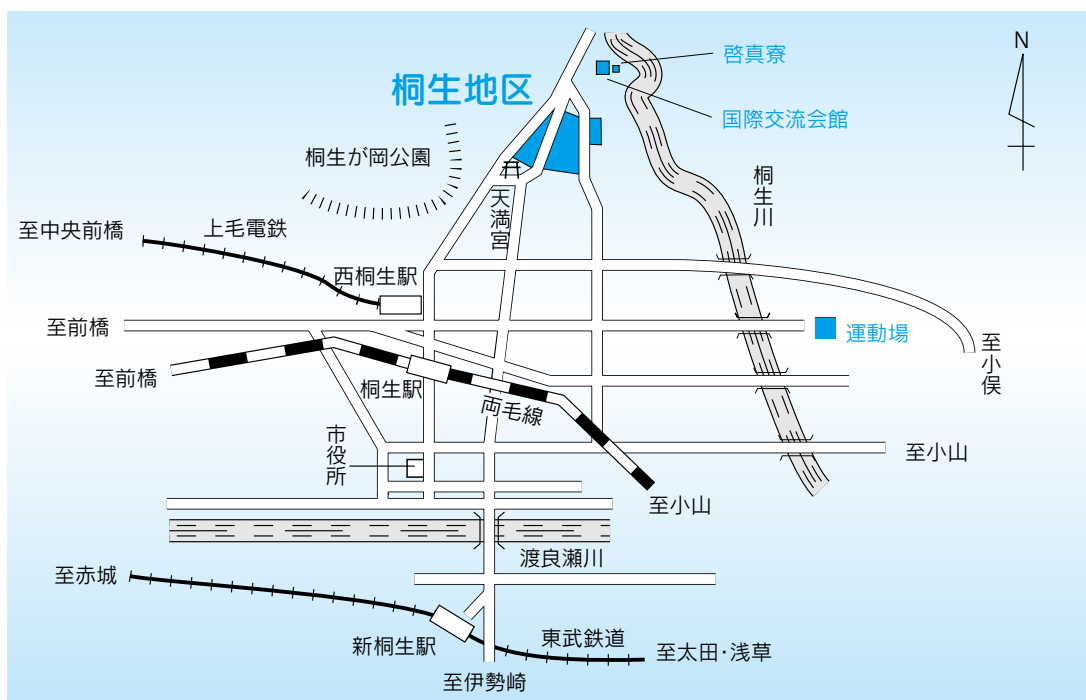
■鉄道

JR 両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km

■バス

JR前橋駅北口6番乗り場
・富士見温泉行「北代田」下車（所要時間約11分＋徒歩15分）（関越交通バス）
・嶺公園行「県営住宅前」下車（所要時間約12分＋徒歩10分）（永井バス）

桐生地区 Kiryu Campus



桐生地区

■鉄道

JR両毛線にて桐生駅下車、北方へ2.5Km
東武桐生線にて新桐生駅下車、北方へ4.1Km

■バス

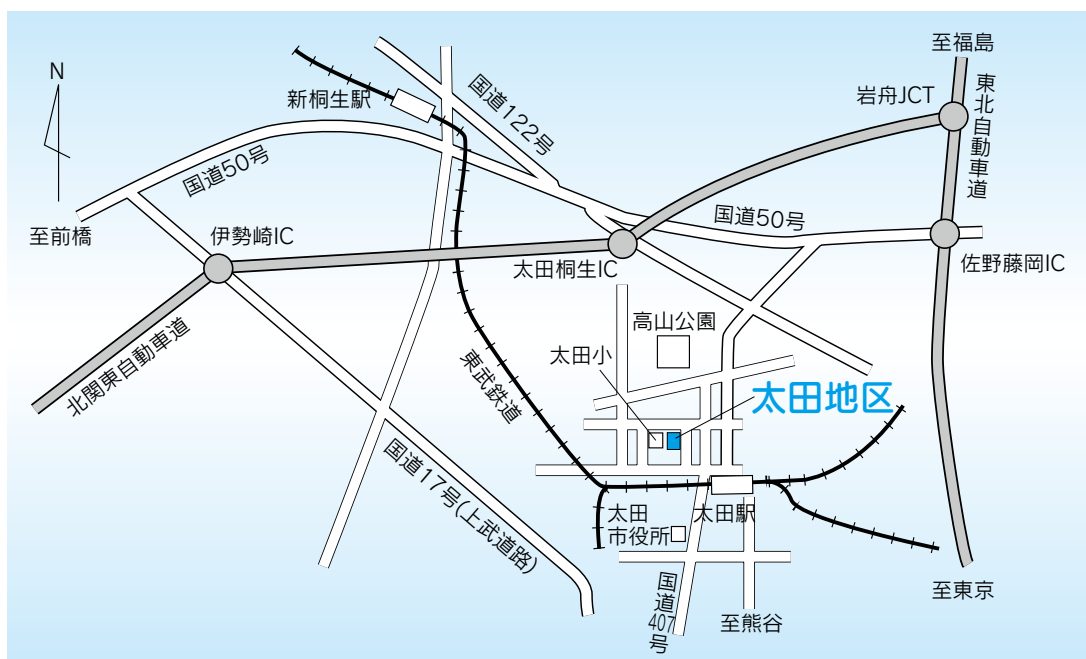
JR桐生駅北口乗り場（おりひめバス）

- ・中央幹線（群大系統）、梅田線「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約7分）
- ・菱線「群馬大学桐生東門前」下車（所要時間は乗車する曜日・系統によって異なります。（約7分～20分））

東武新桐生駅乗り場（おりひめバス）

- ・中央幹線（群大系統）「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約20分）

太田地区 Ota Campus



太田地区

■東武鉄道太田駅北口下車、徒歩約10分（市立太田小学校となり）

■北関東自動車道 太田桐生IC から約10分

各パンフレット等はこちらのリンク先からお読みいただけます。



(大学HP「刊行物」)



研究活動報『水源』10号



広報誌
『GU'DAY (グッデイ)』



グローバルフロンティアリーダー
(GFL) 育成プログラム
パンフレット



生体調節研究所概要2025



群馬大学統合報告書2024



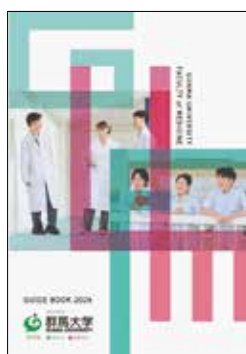
群馬大学案内2026



共同教育学部案内2026



情報学部案内2026



医学部案内2026



理工学部GUIDE BOOK 2026

学年暦

Academic Calendar

区 分	教養教育	共同教育学部	情報学部	医学部		理工学部 (桐生・太田)
				医学科	保健学科	
学 年 開 始	4月1日					
入 学 式	4月4日					
新入生オリエンテーション	4月2～4日（学部・学科・類別に開催します。）					
前 学 期 授 業 開 始	4月9日					
開 学 記 念 日	6月1日					
前 学 期 授 業 終 了	7月30日					7月29日
前 学 期 期 末 試 験	7月31日～8月6日					8月1～8日
夏 季 休 業	8月7日～9月30日					8月9日～9月30日
後 学 期 授 業 開 始	10月1日					
冬 季 休 業	12月25日～1月4日					
後 学 期 授 業 終 了	2月2日					
後 学 期 期 末 試 験	2月3～9日					2月3～12日
学 年 末 休 業	2月10日～3月31日					2月13日～3月31日
学 位 記 授 与 式	3月24日					
学 年 終 了	3月31日					

*理工学部1年生は、「教養教育」による。



学生歌の視聴は
こちらから

「ああ建学の」

■詞：梶田 一之 ■曲：相沢 聡 ■編曲：塚本 靖彦

- | | |
|--|--|
| <p>1. たからかに果てなく響く歌声は
青春の歓喜の調べ
山あをく水きよら
ああ秀麗の国土とあかるく
わが希望かがやく姿よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> | <p>2. たくましく生気に充つる歌声は
青春の至情の調べ
血はたぎり 胸をどり
ああ将来の文化をきずくと
わが理想もえたつ思いよ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> |
| <p>3. とうとうと大地^{だい ち}をゆする歌声は
青春の叡智^{えい ち}の調べ
魂^{たま}さやか 眉^{まゆ}さとく
ああ深奥^{しん おう}の真理をみつむる
わが決意ゆるがぬ心よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> | <p>4. すこやかに若^{わか}やぎはづむ歌声は
青春^{いの ち}の生命^{いの ち}の調べ
暁^{あけ}しるし陽^ひはいでて
ああ建学の理念のみちびく
わが前途あふるる光よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> |

キャッチコピー

Slogan

群を抜け 駆ける 世界を

Break your boundaries, go global from Gunma

群馬大学で思いきり学び、経験し、地域から世界に飛び出していった欲しいという、学生への想いを込めました。何かを気にすることなく自ら決めた道で目指す学問を追い、どこまでも伸び、どんどん抜きんで良い。疾走する馬のような勢いと真っ直ぐさを持って、地域から世界を駆け回る人材を育てたいというイメージです。



国立大学法人群馬大学徽章

昭和24年10月1日制定

周囲は群馬県の象徴である名勝赤城、榛名、妙義の上毛三山を浮彫りさせて大学を囲み、群馬大学の象徴としています。



国立大学法人群馬大学ロゴマーク

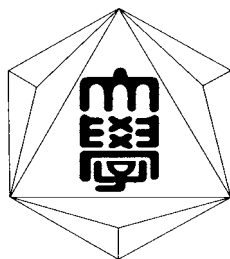
平成18年4月1日制定

群馬大学の英頭文字「G」をモチーフに緑と青で豊かな自然環境を示し、学生の成長と活躍をイメージして、新しい未来への創造と、社会へ貢献する大学の存在感を表現しています。



認証評価認定マーク 令和5年3月23日認定

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による令和4年度実施の大学機関別認証評価において、「群馬大学の教育研究等の総合的な状況は、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準に適合している。」と評価されました。



群馬大学公式HP・SNS

群馬大学に関する情報をHP・SNSにて随時発信中！



群馬大学公式 HP



Facebook



LINE



Instagram



X (旧Twitter)



YouTube

発行日

2025年9月発行

編集

国立大学法人群馬大学総務部総務課広報係
〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地
TEL.027-220-7010、7011 FAX.027-220-7012
E-mail. s-public@ml.gunma-u.ac.jp
URL: <https://www.gunma-u.ac.jp>

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。